

第 2 回

高次脳機能障害者支援体制資源調査結果

平成 2 6 年 1 月

高知県高次脳機能障害相談支援センター

高知県地域福祉部障害保健福祉課

目 次

I 調査の概要

1 調査基準日等	1
2 調査の目的		
3 調査対象施設		
4 調査の実施結果	2

II 調査結果の概要

1 高次脳機能障害患者の現状	3
2 高次脳機能障害患者の推計	7
3 高次脳機能障害者への提供可能な対応	9
4 高次脳機能障害者への対応・相談の状況	10
5 退院後の対応窓口について（医療機関）	12
6 対応が困難な場合の対応・相談先	13
7 高次脳機能障害者への今後の対応	15
8 高次脳機能障害者への対応を充実するうえでの問題点	17
9 高次脳機能障害者への対応を充実するうえでの地域の課題	20
10 サービス提供機関としての情報開示の可否	23
11 高次脳機能支援拠点(高次脳機能障害相談支援センター)の 認知度・利用状況	25
12 自由意見	28

III 調査票様式

・様式1（病院用・有床診療所用）	31
・様式2（無床診療所用）	34
・様式3（福祉サービス提供機関用）	36
・様式4（市町村用）	39

I 調査の概要

1 調査基準日等

調査基準日：平成 24 年 6 月 1 日

調査対象期間

医療機関：平成 24 年 6 月 1 日～平成 24 年 6 月 30 日

福祉サービス提供機関：平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

市町村・地域包括支援センター：平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

2 調査の目的

高次脳機能障害は、外見からは障害を持っていることがわかりにくいなどの特徴があるため、必ずしも的確な医療・福祉サービスが提供されていない状況にあると考えられる。そのため、高次脳機能障害者支援の充実を図るために、高次脳機能障害に係る県内の医療や福祉サービス等の実態を把握することとし、平成 19 年 3 月に第 1 回調査を実施し、平成 20 年 11 月には、高次脳機能障害支援拠点として高次脳機能障害相談支援センターを高知ハビリテーリングセンターに開設した。

支援拠点を開設後の高次脳機能障害に関する認知度や支援状況の変化を確認するとともに、支援のための資源の有効活用や関係機関の連携の仕組みづくり、地域における支援体制の整備を検討するための基礎資料を得ることを目的として本調査を実施した。

3 調査対象施設

(1) 医療機関

精神科、神経精神科、神経科、神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科を標榜する病院・診療所

(2) 福祉サービス提供機関

【1. 高齢者】

① 介護保険サービス提供事業者

- ・ 居宅介護支援事業所
- ・ 訪問看護事業所
- ・ 訪問介護事業所
- ・ 小規模多機能型居宅介護事業所
- ・ 短期入所生活介護事業所
- ・ 短期入所療養介護事業所
- ・ 通所リハビリテーション事業所
- ・ 通所介護事業所
- ・ 訪問リハビリテーション事業所

【2. 障害者】

① 居宅サービス事業所

- ・ 居宅介護支援事業所
- ・ 重度訪問介護事業所

- ・ 同行援護事業所
- ・ 行動援護事業所
- ・ グループホーム
- ・ ケアホーム

② 施設関係事業所

- ・ 障害児通所支援事業所
- ・ 短期入所事業所
- ・ 生活介護事業所
- ・ 自立訓練（機能訓練）事業所
- ・ 自立訓練（生活訓練）事業所
- ・ 就労移行支援事業所
- ・ 就労継続支援 A 型事業所
- ・ 就労継続支援 B 型事業所
- ・ 施設入所支援事業所

③ 指定相談支援事業所

④ 地域活動支援センター

(3) 市町村

- ・ 各市町村障害担当課
- ・ 地域包括支援センター

4 調査の実施結果

県内の病院、診療所、福祉サービス提供機関、市町村・地域包括支援センターの 1,916 箇所にアンケート調査票を送付し、回答があったのは 767 箇所、回収率は 40.0%である。

図表 1 回収結果（第 2 回調査）

	配布施設数	回収数	回答率(%)
医療機関	268	107	39.9%
福祉サービス提供機関	1,576	588	37.3%
市町村・地域包括支援センター	72	72	100.0%
計	1,916	767	40.0%

図表 2 回収結果（第 1 回調査）

	配布施設数	回収数	回答率(%)
医療機関	191	102	53.4%
福祉サービス提供機関	129	80	62.0%
市町村	35	35	100.0%
計	355	217	61.1%

Ⅱ 調査結果の概要

医療機関、福祉サービス事業所及び市町村・地域包括支援センターが関わる高次脳機能障害者の現状や年間発生数の推計を算定するとともに、支援を充実するうえでの課題等についての概要をまとめた。

また、圏域別として高知市及び各福祉保健所管轄別のデータを作成した。

なお、福祉サービス提供機関については、サービス種別ごとに調査票を送付しているため、同一の施設が複数回答しており、施設数や利用者数の重複がある。

1 高次脳機能障害者の現状

(1) 医療機関通院者の状況

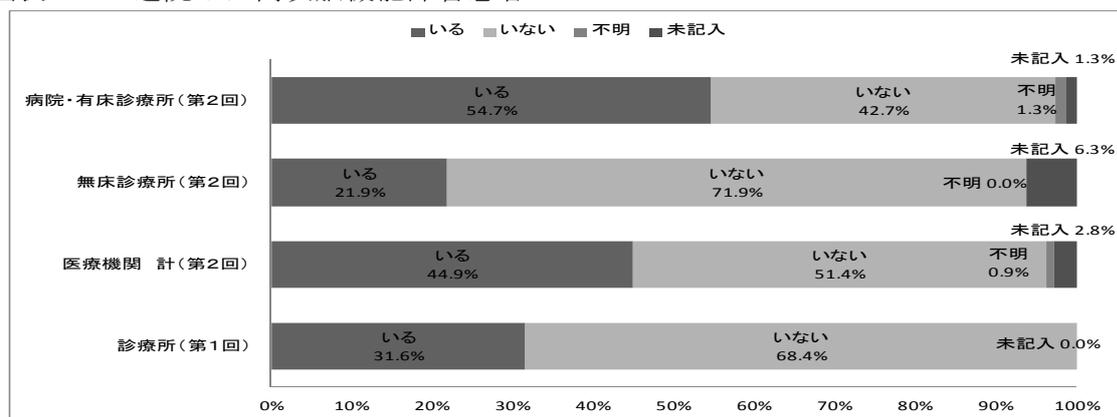
平成24年6月1日から6月30日の1ヶ月間に通院した高次脳機能障害患者（疑い含む）について、48(44.9%)医療機関が「いる」と回答している。

図表 1-1 通院した高次脳機能障害患者

		回答機関数	いる	いない	不明	未記入
第2回	病院・有床診療所	75	41 54.7%	32 42.7%	1 1.3%	1 1.3%
	無床診療所	32	7 21.9%	23 71.9%	0 0.0%	2 6.3%
	医療機関 計	107	48 44.9%	55 51.4%	1 0.9%	3 2.8%
第1回	診療所	38	12 31.6%	26 68.4%	—	0 0.0%

注) 第1回調査:平成18年9月1日～平成19年2月28日の6ヶ月間

図表 1-2 通院した高次脳機能障害患者



通院患者がいると回答した医療機関には、調査期間に499名が通院しており、男性52.3%、女性47.7%で、原因別では脳血管疾患が71.9%と最も多く、年齢別では65歳以上が60.5%を占めていた。

図表2 通院患者の病名、年齢

	原因	脳外傷				脳血管疾患		その他疾患		不明		合計				
		交通事故		その他		男	女	男	女	男	女	男	女	合計		
		男	女	男	女											
第2回	病院・有床診療所	性別														
		～17歳	2 0.4%	1 0.2%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.2%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.4%	0 0.0%	1 0.2%	3 0.6%	4 0.8%	7 1.5%	
		18歳～39歳	11 2.3%	8 1.7%	3 0.6%	0 0.0%	7 1.5%	2 0.4%	3 0.6%	0 0.0%	1 0.2%	0 0.0%	25 5.3%	10 2.1%	35 7.4%	
		40歳～64歳	11 2.3%	4 0.8%	8 1.7%	3 0.6%	63 13.3%	40 8.4%	0 0.0%	3 0.6%	5 1.1%	6 1.3%	87 18.4%	56 11.8%	143 30.2%	
		65歳以上	2 0.4%	1 0.2%	6 1.3%	9 1.9%	103 21.7%	134 28.3%	9 1.9%	9 1.9%	5 1.1%	11 2.3%	125 26.4%	164 34.6%	289 61.0%	
		不明	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
		小計	26 5.5%	14 3.0%	17 3.6%	12 2.5%	174 36.7%	176 37.1%	12 2.5%	14 3.0%	11 2.3%	18 3.8%	240 50.6%	234 49.4%	474 100.0%	
	無床診療所	～17歳	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
		18歳～39歳	3 12.0%	1 4.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.0%	0 0.0%	4 16.0%	2 8.0%	6 24.0%	
		40歳～64歳	1 4.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.0%	0 0.0%	2 8.0%	1 4.0%	1 4.0%	0 0.0%	5 20.0%	1 4.0%	6 24.0%	
		65歳以上	5 20.0%	0 0.0%	1 4.0%	0 0.0%	6 24.0%	1 4.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12 48.0%	1 4.0%	13 52.0%	
		不明	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
		小計	9 36.0%	1 4.0%	1 4.0%	0 0.0%	7 28.0%	2 8.0%	2 8.0%	1 4.0%	2 8.0%	0 0.0%	21 84.0%	4 16.0%	25 100.0%	
		医療機関計	～17歳	2 0.4%	1 0.2%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.2%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.4%	0 0.0%	1 0.2%	3 0.6%	4 0.8%	7 1.4%
18歳～39歳	14 2.8%	9 1.8%	3 0.6%	0 0.0%	7 1.4%	3 0.6%	3 0.6%	0 0.0%	2 0.4%	0 0.0%	29 5.8%	12 2.4%	41 8.2%			
40歳～64歳	12 2.4%	4 0.8%	8 1.6%	3 0.6%	64 12.8%	40 8.0%	2 0.4%	4 0.8%	6 1.2%	6 1.2%	92 18.4%	57 11.4%	149 29.9%			
65歳以上	7 1.4%	1 0.2%	7 1.4%	9 1.8%	109 21.8%	135 27.1%	9 1.8%	9 1.8%	5 1.0%	11 2.2%	137 27.5%	165 33.1%	302 60.5%			
不明	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%			
合計	35 7.0%	15 3.0%	18 3.6%	12 2.4%	181 36.3%	178 35.7%	14 2.8%	15 3.0%	13 2.6%	18 3.6%	261 52.3%	238 47.7%	499 100.0%			
第1回	診療所	合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	271 100.0%		

(2) 福祉サービス提供機関利用者の状況

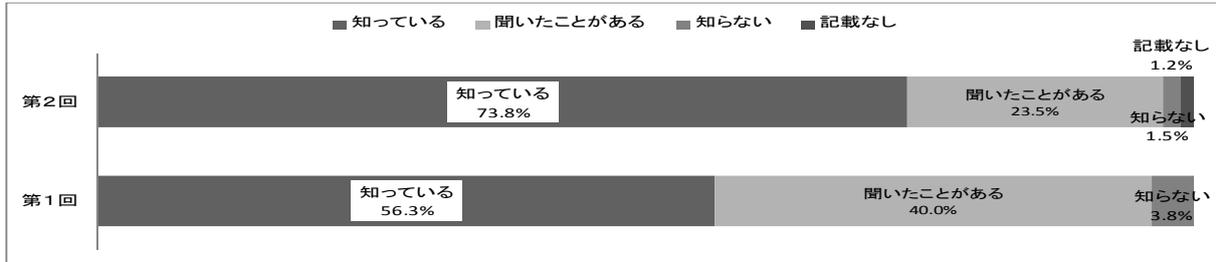
①福祉サービス提供機関の高次脳機能障害についての知識

福祉サービス提供機関について、高次脳機能障害について「知っている」と回答したのは434機関(73.8%)で、第1回調査と比べて大きく増加している。

図表 3-1 福祉サービス提供機関の高次脳機能障害についての知識

	知っている	聞いたことがある	知らない	記載なし	合計
第2回	434	138	9	7	588
	73.8%	23.5%	1.5%	1.2%	100.0%
第1回	45	32	3	0	80
	56.3%	40.0%	3.8%	0.0%	100.0%

図表 3-2 福祉サービス提供機関の高次脳機能障害についての知識



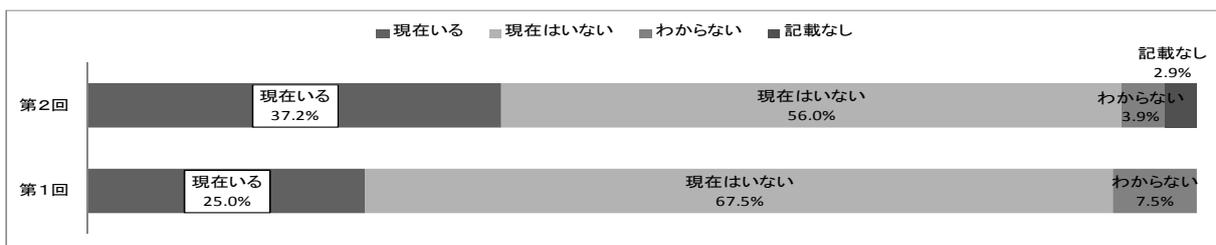
② 高次脳機能障害のある利用者の状況

高次脳機能障害(疑い含む)のある利用者について、福祉サービス提供機関のうち219(37.2%)機関が「いる」と回答しており、第1回調査と比較すると、12.2ポイント増加している。

図表 4-1 高次脳機能障害のある利用者

	現在いる	現在はいない	わからない	記載なし	合計
第2回	219	329	23	17	588
	37.2%	56.0%	3.9%	2.9%	100.0%
第1回	20	54	6	0	80
	25.0%	67.5%	7.5%	0.0%	100.0%

図表 4-2 高次脳機能障害のある利用者



図表 4-3 第2回調査

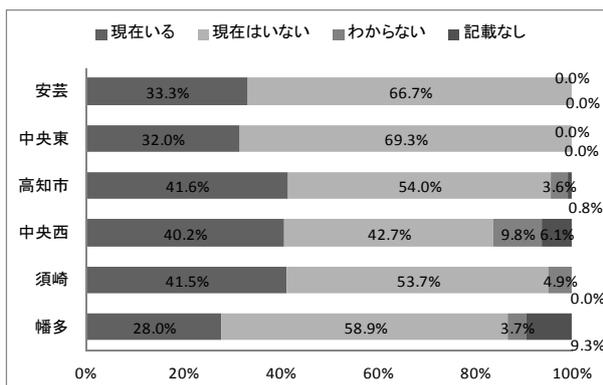
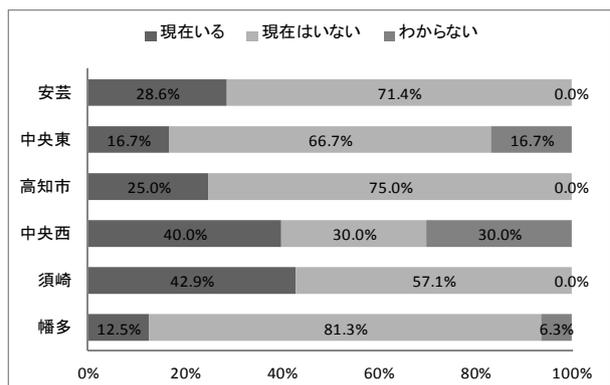
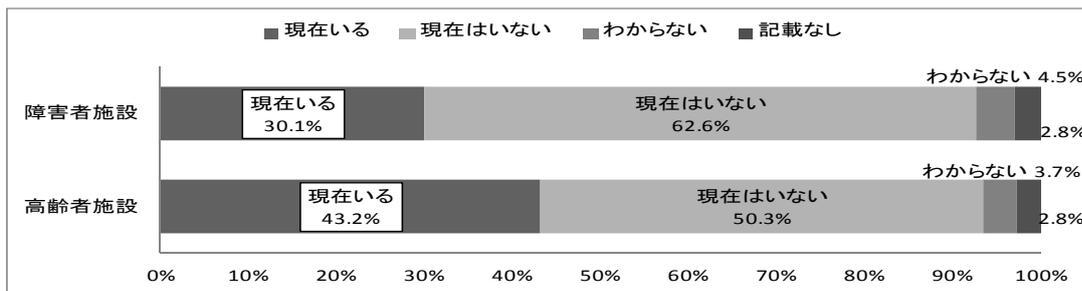


図 4-4 第1回調査



図表 4-5 高次脳機能障害のある利用者



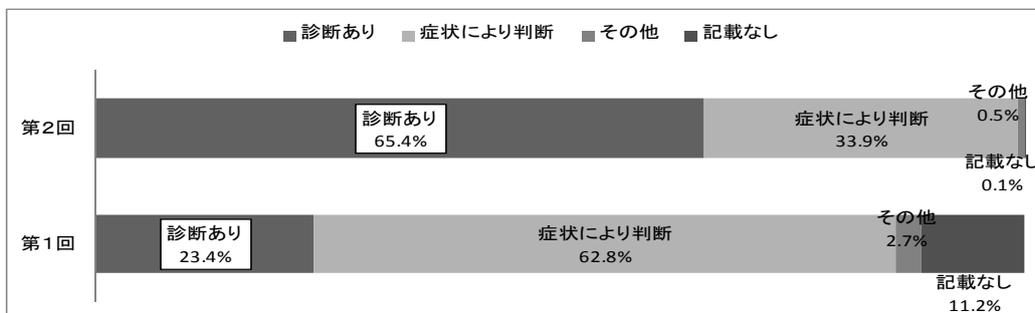
③ 高次脳機能障害と判断した理由

「現在いる」と回答した機関について、高次脳機能障害と判断した実人員は 761 名であり、その理由の内訳は、診断あり 65.4%、症状により判断が 33.9%となっている。第 1 回調査と比較すると、診断ありの件数、割合が大きく増加している。

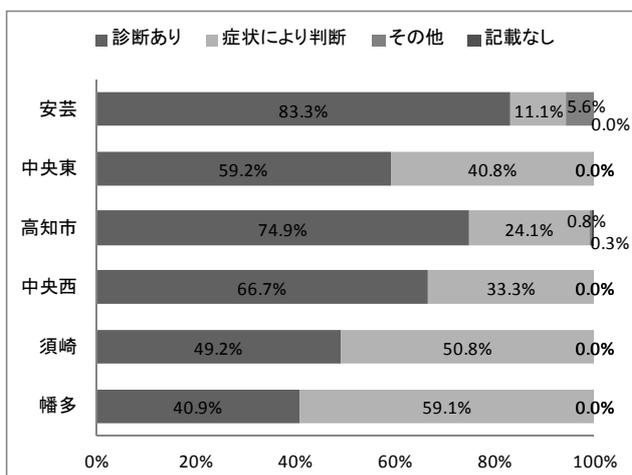
図表 5-1 高次脳機能障害者の実人数・判断理由

	実人数	内訳				合計
		診断あり	症状により判断	その他	記載なし	
第2回	761	498	258	4	1	761
		65.4%	33.9%	0.5%	0.1%	100.0%
第1回	188	44	118	5	21	188
		23.4%	62.8%	2.7%	11.2%	100.0%

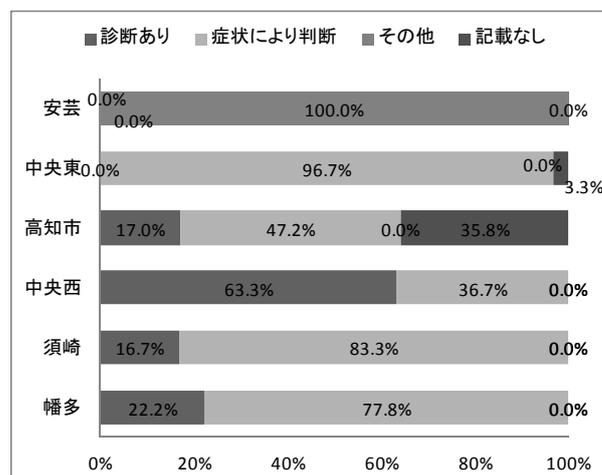
図表 5-2 高次脳機能障害者の判断理由



図表 5-3 第 2 回調査



図表 5-4 第 1 回調査



(3) 市町村・地域包括支援センターへの相談者の状況

平成23年度（平成23年4月1日～平成24年3月31日）に、高次脳機能障害の方の相談を受けた市町村・地域包括支援センターは、42（58.3%）機関で、その実人員88名のうち40～65歳の男性が41名（46.6%）と最も多かった。

図表6 市町村・地域包括支援センターへの相談

	回答機関数	受けた	ない	不明
第2回	72	42	25	5
		58.3%	34.7%	6.9%
第1回	35	20	15	0
		57.1%	42.9%	0.0%

図表7 市町村・地域包括支援センターへの相談 年齢階層別・男女別

	実人数	～17歳		18歳～39歳		40～65歳		65歳～		合計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
第2回	88	0	1	15	4	41	12	10	5	66	22	88
		0.0%	1.1%	17.0%	4.5%	46.6%	13.6%	11.4%	5.7%	75.0%	25.0%	100.0%

図表8 市町村・地域包括支援センターへの相談 相談者別

	実人数	家族	本人	医療機関	相談機関	施設	学校	その他	記載なし
第2回	88	57	31	23	13	4	1	10	4
		64.8%	35.2%	26.1%	14.8%	4.5%	1.1%	11.4%	4.5%
第1回	56	20	11	16	0	3	0	6	0
		35.7%	19.6%	28.6%	0.0%	5.4%	0.0%	10.7%	0.0%

※第2回は、実人員は88名個々についての相談者の内訳（複数回答可）を回答したもの。

※第1回は、相談者56名の内訳を回答したもの。

2 高次脳機能障害患者の推計

(1) 脳損傷患者発生数

高次脳機能障害の原因である脳損傷の実態を把握するため、県内の病院及び有床診療所を対象に、平成24年6月1日から6月30日の1ヶ月間に、入退院した脳損傷患者の原因疾患別・年齢分類別人数を調査した。

調査した1ヶ月間に新規入院した脳損傷患者数は353名であり、退院患者数は388名であった。なお、退院患者のうち、退院時に高次脳機能障害（疑いを含む）を有すると判断された患者は68名で、17.5%を占めた。

図表 9-1 新規入院・退院患者数（第 2 回調査）

単位：人

原因	新規入院患者				退院患者							
	脳外傷	脳血管疾患	その他疾患	合計	脳外傷		脳血管疾患		その他疾患		合計	
					うち高次脳		うち高次脳		うち高次脳		うち高次脳	
～17歳	2 0.6%	0 0.0%	1 0.3%	3 0.8%	1 0.3%	(1) (0.3%)	0 0.0%	(0) (0.0%)	0 0.0%	(0) (0.0%)	1 0.3%	(1) (0.3%)
18歳～39歳	1 0.3%	4 1.1%	1 0.3%	6 1.7%	3 0.8%	(0) (0.0%)	3 0.8%	(1) (0.3%)	3 0.8%	(1) (0.3%)	9 2.3%	(2) (0.5%)
40歳～64歳	10 2.8%	37 10.5%	13 3.7%	60 17.0%	8 2.1%	(1) (0.3%)	40 10.3%	(9) (2.3%)	10 2.6%	(0) (0.0%)	58 14.9%	(10) (2.6%)
65歳以上	26 7.4%	245 69.4%	13 3.7%	284 80.5%	31 8.0%	(8) (2.1%)	268 69.1%	(40) (10.3%)	21 5.4%	(7) (1.8%)	320 82.5%	(55) (14.2%)
合計	39 11.0%	286 81.0%	28 7.9%	353 100.0%	43 11.1%	(10) (2.6%)	311 80.2%	(50) (12.9%)	34 8.8%	(8) (2.1%)	388 100.0%	(68) (17.5%)

図表 9-2 新規入院・退院患者数（第 1 回調査）

単位：人

原因	新規入院患者				退院患者							
	脳外傷	脳血管疾患	その他疾患	合計	脳外傷		脳血管疾患		その他疾患		合計	
					うち高次脳		うち高次脳		うち高次脳		うち高次脳	
～17歳	2 0.6%	2 0.6%	1 0.3%	5 1.5%	2 0.5%	(0) (0.0%)	0 0.0%	(0) (0.0%)	0 0.0%	(0) (0.0%)	2 0.5%	(0) (0.0%)
18歳～39歳	1 0.3%	2 0.6%	1 0.3%	4 1.2%	0 0.0%	(0) (0.0%)	1 0.3%	(0) (0.0%)	3 0.8%	(1) (0.3%)	4 1.0%	(1) (0.3%)
40歳～64歳	6 1.7%	37 10.8%	13 3.8%	56 16.3%	6 1.5%	(3) (0.8%)	45 11.3%	(15) (3.8%)	2 0.5%	(0) (0.0%)	53 13.7%	(18) (4.6%)
65歳以上	20 5.8%	245 71.4%	13 3.8%	278 81.0%	20 5.0%	(5) (1.3%)	283 71.3%	(79) (19.9%)	35 8.8%	(10) (2.5%)	338 85.1%	(94) (24.2%)
合計	29 8.5%	286 83.4%	28 8.2%	343 100.0%	28 7.1%	(8) (2.0%)	329 82.9%	(94) (23.7%)	40 10.1%	(11) (2.8%)	397 100.0%	(113) (28.5%)

(2) 高次脳機能障害患者発生の推計

退院患者のうち、高次脳機能障害（疑いを含む）を有すると判断された 68 名の中で、介護保険サービスの対象となる 65 歳以上を除いた若年患者（64 歳以下 13 名）から、高知県での高次脳機能障害の発生数を推計したところ、年間 158 人となった。

なお、前回調査時の年間発生件数の推計は 224 人であった。

【年間発生件数の推計】

（第 2 回） 13 人 / 30 日 × 365 日 = 158.17 人 ≒ 158 人

※人口 10 万人あたり 29.2 人

（参考）64 歳以下県人口：540,338 人（平成 22 年国勢調査）

（第 1 回） 19 人 / 31 日 × 365.25 日 = 224 人

※人口 10 万人あたり 37.9 人

（参考）64 歳以下県人口：590,278 人（平成 17 年国勢調査）

3 高次脳機能障害者への提供可能な対応

(1) 医療機関

医療機関 60 機関 (56.1%) が高次脳機能障害者 (疑い含む) に対して、提供可能なサービスがあると回答しており、圏域別で最も多いのが高知市 31 機関 (57.4%)、中央東 8 機関 (57.1%)、中央西 7 機関 (58.3%) となっている。対応の内容については、リハビリ 39.3%、診断 27.1%、治療 26.2% の順となっている。

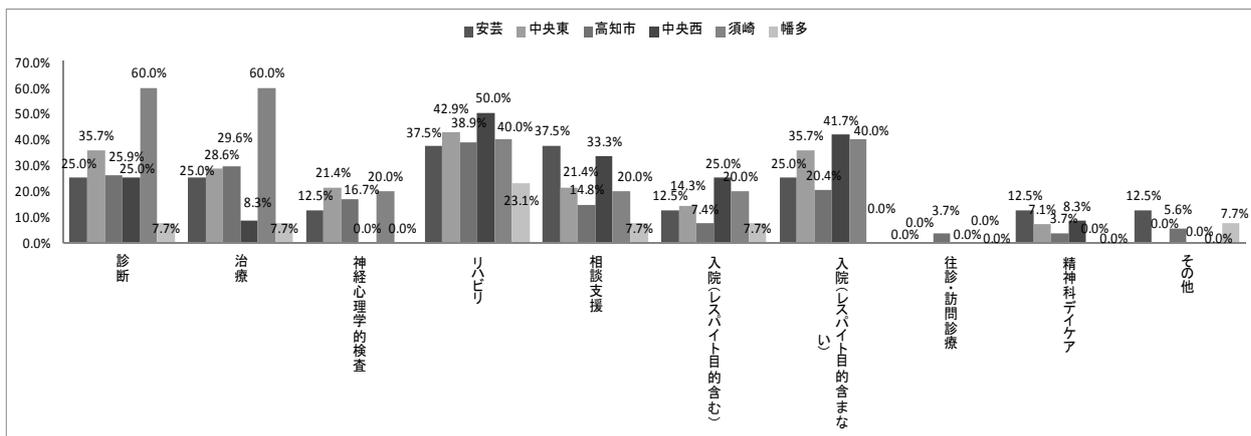
図表 10 提供可能対応有無 圏域別比較 (第 2 回調査)

圏域	回答機関数	提供可能な対応「あり」	
		機関数	割合
安芸	8	4	50.0%
中央東	14	8	57.1%
高知市	54	31	57.4%
中央西	12	7	58.3%
須崎	5	3	60.0%
幡多	13	6	46.2%
不明	1	1	100.0%
合計	107	60	56.1%

図表 11-1 提供可能対応内訳 圏域別比較 (第 2 回調査)

圏域	回答機関数	診断	治療	神経心理学的検査	リハビリ(P・T・OT・ST)	相談支援	入院(レスパイトケア目的含む)	入院(レスパイトケア目的含まない)	往診・訪問診療	精神科デイケア	その他
安芸	8	2 25.0%	2 25.0%	1 12.5%	3 37.5%	3 37.5%	1 12.5%	2 25.0%	0 0.0%	1 12.5%	1 12.5%
中央東	14	5 35.7%	4 28.6%	3 21.4%	6 42.9%	3 21.4%	2 14.3%	5 35.7%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%
高知市	54	14 25.9%	16 29.6%	9 16.7%	21 38.9%	8 14.8%	4 7.4%	11 20.4%	2 3.7%	2 3.7%	3 5.6%
中央西	12	3 25.0%	1 8.3%	0 0.0%	6 50.0%	4 33.3%	3 25.0%	5 41.7%	0 0.0%	1 8.3%	0 0.0%
須崎	5	3 60.0%	3 60.0%	1 20.0%	2 40.0%	1 20.0%	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
幡多	13	1 7.7%	1 7.7%	0 0.0%	3 23.1%	1 7.7%	1 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.7%
不明	1	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%
合計	107	29 27.1%	28 26.2%	14 13.1%	42 39.3%	21 19.6%	13 12.1%	26 24.3%	2 1.9%	6 5.6%	5 4.7%

図表 11-2 提供可能対応内訳 圏域別比較 (第 2 回調査)



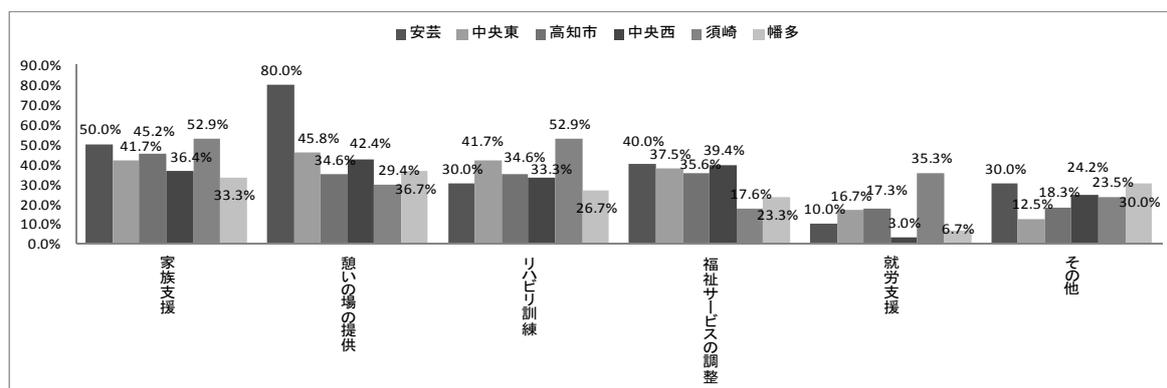
(2) 福祉サービス提供機関

各機関の提供サービスの内容（複数回答）は、「家族支援」「憩いの場の提供」「リハビリ訓練」「福祉サービスの調整」の順となっている。

図表 12-1 提供サービス内容 圏域別比較（第2回調査）

圏域	回答機関数	家族支援(相談対応・レスパイトケア)	憩いの場の提供	リハビリ訓練	福祉サービスの調整	就労支援	その他	記載なし
安芸	10	5 50.0%	8 80.0%	3 30.0%	4 40.0%	1 10.0%	3 30.0%	0 0.0%
中央東	24	10 41.7%	11 45.8%	10 41.7%	9 37.5%	4 16.7%	3 12.5%	3 12.5%
高知市	104	47 45.2%	36 34.6%	36 34.6%	37 35.6%	18 17.3%	19 18.3%	8 7.7%
中央西	33	12 36.4%	14 42.4%	11 33.3%	13 39.4%	1 3.0%	8 24.2%	2 6.1%
須崎	17	9 52.9%	5 29.4%	9 52.9%	3 17.6%	6 35.3%	4 23.5%	0 0.0%
幡多	30	10 33.3%	11 36.7%	8 26.7%	7 23.3%	2 6.7%	9 30.0%	1 3.3%
不明	1	1	1	1				
合計	219	94 42.9%	86 39.3%	78 35.6%	73 33.3%	32 14.6%	46 21.0%	14 6.4%

図表 12-2 提供サービス内容 圏域別比較（第2回調査）



4 高次脳機能障害者への対応・相談の状況

(1) 福祉サービス提供機関利用者の具体的な症状及び対応に苦慮する点について

図表 13 具体的な症状及び対応に苦慮する点 認知機能

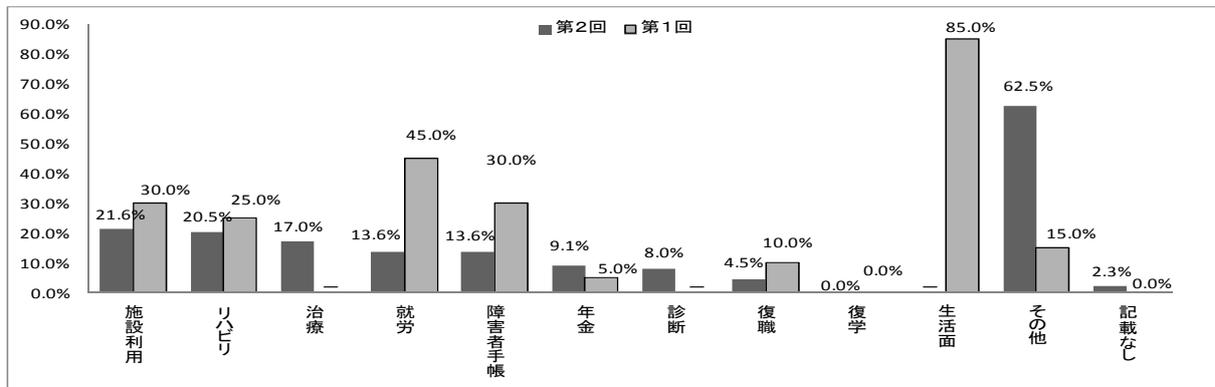
第2回	認知機能						認知機能小計
	記憶障害	注意障害	巣症状(失語、失行、失認)	遂行機能障害	病識欠落	半側空間無視	
該当人数	145	131	101	89	80	59	605
分類別割合 N=605	24.0%	21.7%	16.7%	14.7%	13.2%	9.8%	100.0%
全体割合 N=761	19.1%	17.2%	13.3%	11.7%	10.5%	7.8%	79.5%

図表 14 具体的な症状及び対応に苦慮する点 社会的行動障害

第2回	社会的行動障害									その他
	感情コントロール低下	意欲・発動性の低下	固執性	対人技能拙劣	依存性・退行	欲求コントロール低下	感情失禁	抑うつ	社会行動障害小計	
該当人数	97	94	89	86	77	70	51	44	608	3
分類別割合 N=611	16.0%	15.5%	14.6%	14.1%	12.7%	11.5%	8.4%	7.2%	100.0%	0.5%
全体割合 N=761	12.7%	12.4%	11.7%	11.3%	10.1%	9.2%	6.7%	5.8%	79.9%	0.4%

(2) 市町村・地域包括支援センターへの相談内容

図表 15 市町村・地域包括支援センターへの相談内容



(3) 市町村・地域包括支援センターが相談対応で一番難しかった点

図表 16 相談対応で一番難しかった点

	回答機関数	対応できるサービスや、機関の不足	サービスや機関に関する情報不足	的確なサービスに繋がらない、制度上の問題	職員の高次脳機能障害に対する知識の不足	特に難しい点はなかった	その他	合計
第2回	42	21 50.0%	12 28.6%	9 21.4%	8 19.0%	2 4.8%	9 21.4%	61
第1回	20	5 25.0%	-	4 20.0%	10 50.0%	0 0.0%	1 5.0%	20

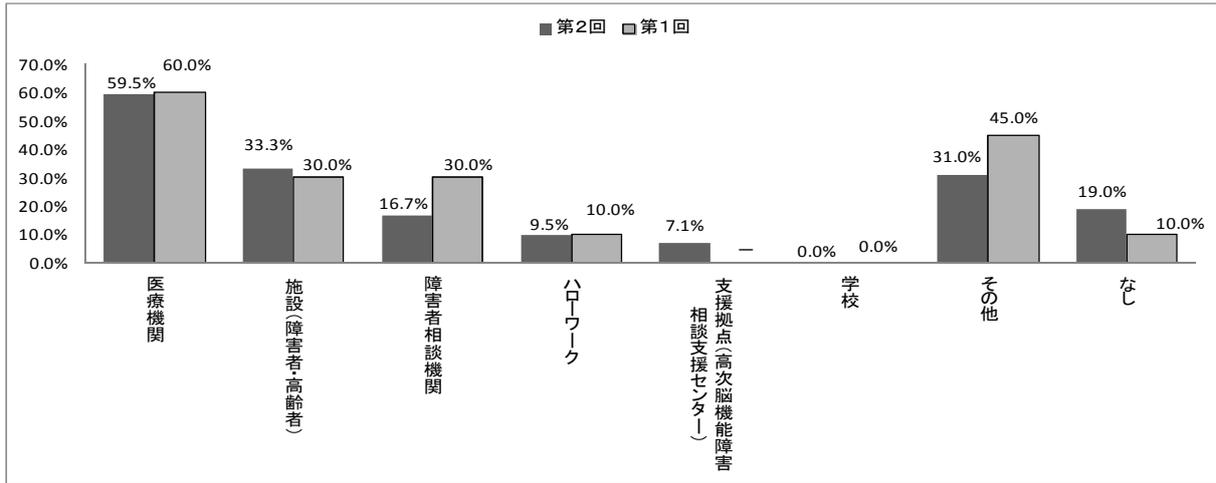
※第2回は複数回答した市町村があったため、合計数が母数と一致していない。

(4) 相談対応にあたり連携した機関

図表 17-1 相談対応にあたり連携した機関(複数回答)

	回答機関数	医療機関	施設(障害者・高齢者)	障害者相談機関	支援拠点(高次脳機能障害相談支援センター)	ハローワーク	学校	その他	なし
第2回	42	25 59.5%	14 33.3%	7 16.7%	3 7.1%	4 9.5%	0 0.0%	13 31.0%	8 19.0%
第1回	20	12 60.0%	6 30.0%	6 30.0%	-	2 10.0%	0 0.0%	9 45.0%	2 10.0%

図表 17-2 相談対応にあたり連携した機関(複数回答)



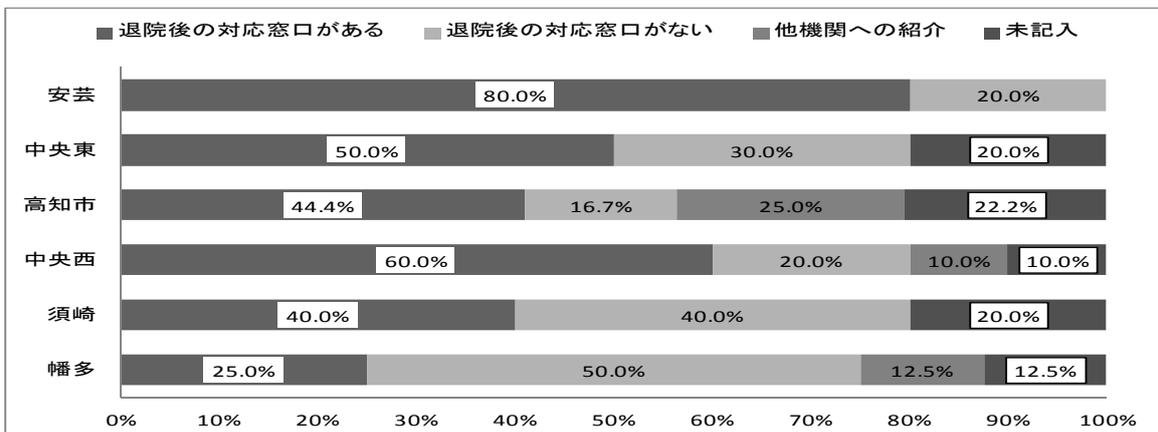
5 退院後の対応窓口について (医療機関)

医療機関うち 36 機関 (48.0%) が、「退院後の対応窓口がある」と回答している。

図表 18-1 退院後の対応窓口 圏域別比較 (第2回調査)

圏域	回答機関数	退院後の対応窓口がある	退院後の対応窓口がない	他機関への紹介	未記入
安芸	5	4 80.0%	1 20.0%	0.0%	0.0%
中央東	10	5 50.0%	3 30.0%	0.0%	2 20.0%
高知市	36	16 44.4%	6 16.7%	9 25.0%	8 22.2%
中央西	10	6 60.0%	2 20.0%	1 10.0%	1 10.0%
須崎	5	2 40.0%	2 40.0%	0.0%	1 20.0%
幡多	8	2 25.0%	4 50.0%	1 12.5%	1 12.5%
不明	1	1 100.0%	0.0%	1 100.0%	0.0%
合計	75	36 48.0%	18 24.0%	12 16.0%	13 17.3%

図表 18-2 退院後の対応窓口 圏域別比較 (第2回調査)



6 対応が困難場合の対応・相談先

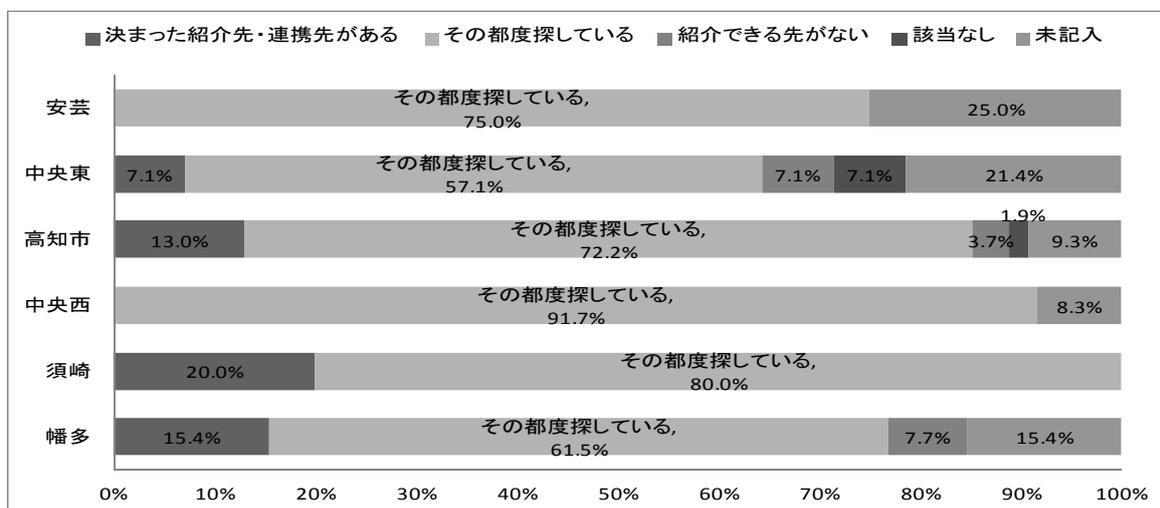
(1) 医療機関

高次脳機能障害の患者（疑い含む）に対しての診断、治療が困難な場合、他の医療機関の紹介等を行っているかどうかについては、決まった紹介先・連携先があるのは、12機関（11.2%）に留まり、その都度探している機関が76（71.0%）を占めている。

図表 19-1 診断、治療が困難な場合の対応 圏域別比較（第2回調査）

圏域	回答機関数	決まった紹介先・連携先がある	その都度探している	紹介できる先がない	該当なし	未記入
安芸	8	0 0.0%	6 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 25.0%
中央東	14	1 7.1%	8 57.1%	1 7.1%	1 7.1%	3 21.4%
高知市	54	7 13.0%	39 72.2%	2 3.7%	1 1.9%	5 9.3%
中央西	12	0 0.0%	11 91.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%
須崎	5	1 20.0%	4 80.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
幡多	13	2 15.4%	8 61.5%	1 7.7%	0 0.0%	2 15.4%
不明	1	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	107	12 11.2%	76 71.0%	4 3.7%	2 1.9%	13 12.1%

図表 19-2 診断、治療が困難な場合の対応 圏域別比較（第2回調査）



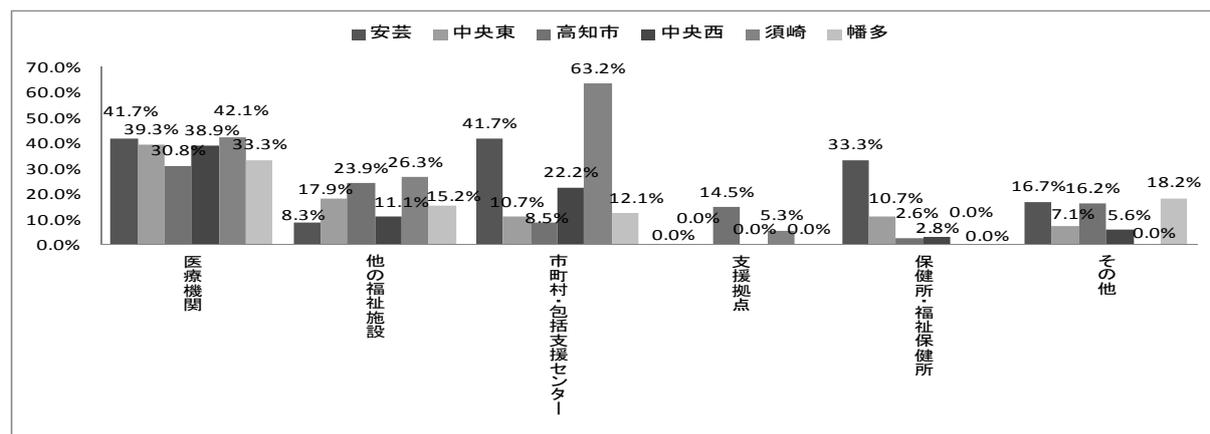
(2) 福祉サービス提供機関

対応が困難になった場合の相談先（複数回答）は、医療機関が35.0%と最も高率で、次いで、他の福祉施設19.5%、市町村・地域包括支援センター17.1%、保健所・福祉保健所4.5%となっている。圏域別では、須崎で市町村・地域包括支援センターが、63.2%と高率であった。

図表 20-1 困難時相談先 圏域別比較 (第2回調査)

圏域	回答機関数	医療機関	他の福祉施設	市町村・包括支援センター	支援拠点(高次脳機能障害相談支援センター)	保健所・福祉保健所	その他	相談せず	記載なし
安芸	12	5 41.7%	1 8.3%	5 41.7%	0 0.0%	4 33.3%	2 16.7%	0 0.0%	1 8.3%
中央東	28	11 39.3%	5 17.9%	3 10.7%	0 0.0%	3 10.7%	2 7.1%	1 3.6%	6 21.4%
高知市	117	36 30.8%	28 23.9%	10 8.5%	17 14.5%	3 2.6%	19 16.2%	6 5.1%	26 22.2%
中央西	36	14 38.9%	4 11.1%	8 22.2%	0 0.0%	1 2.8%	2 5.6%	1 2.8%	12 33.3%
須崎	19	8 42.1%	5 26.3%	12 63.2%	1 5.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.3%	1 5.3%
幡多	33	11 33.3%	5 15.2%	4 12.1%	0 0.0%	0 0.0%	6 18.2%	1 3.0%	10 30.3%
不明	1	1							
合計	246	86 35.0%	48 19.5%	42 17.1%	18 7.3%	11 4.5%	31 12.6%	10 4.1%	56 22.8%

図表 20-2 困難時相談先 圏域別比較 (第2回調査)

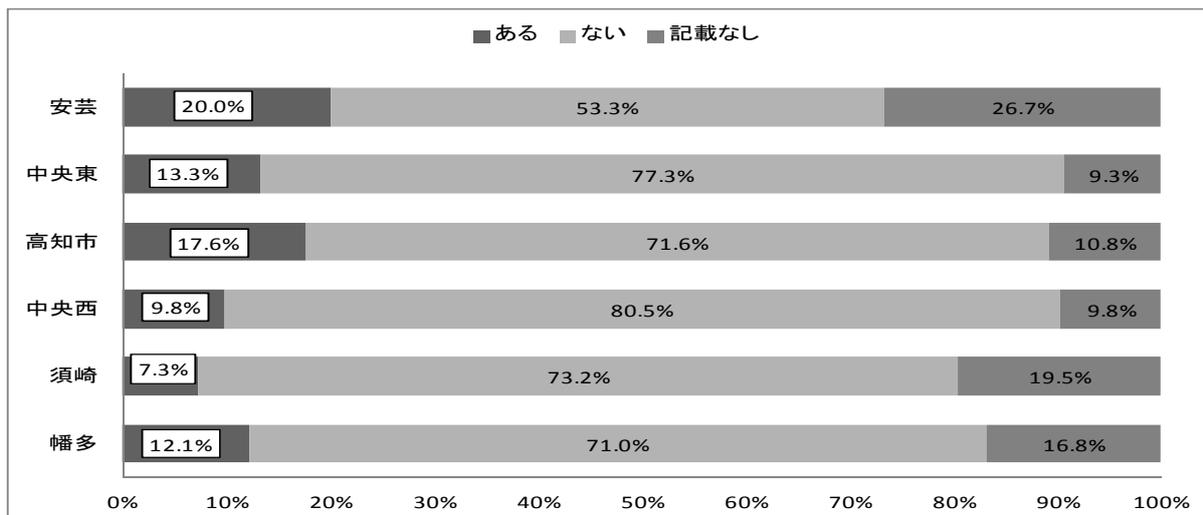


また、「高次脳機能障害者に対して他の機関を紹介することがあるか。」の質問に対しては、72.6%が紹介しないと回答している。

図表 21-1 紹介有無 圏域別比較 (第2回調査)

圏域	回答機関数	ある	ない	記載なし
安芸	30	6 20.0%	16 53.3%	8 26.7%
中央東	75	10 13.3%	58 77.3%	7 9.3%
高知市	250	44 17.6%	179 71.6%	27 10.8%
中央西	82	8 9.8%	66 80.5%	8 9.8%
須崎	41	3 7.3%	30 73.2%	8 19.5%
幡多	107	13 12.1%	76 71.0%	18 16.8%
不明	3		2	1
合計	588	84 14.3%	427 72.6%	77 13.1%

図表 21-2 紹介有無 圏域別比較（第2回調査）



7 高次脳機能障害者への今後の対応

(1) 全機関の比較

「高次脳機能障害者への対応について、今後充実したいと考えているか」については、第2回調査では、医療機関の12.1%、福祉サービス提供機関の36.9%、市町村・地域包括支援センターの50%が「充実したい」と回答している。

第1回調査時と比較すると、「充実したい」の割合は福祉サービス提供機関、市町村において増加している。

図表 22-1 今後の対応 機関別（第2回調査）

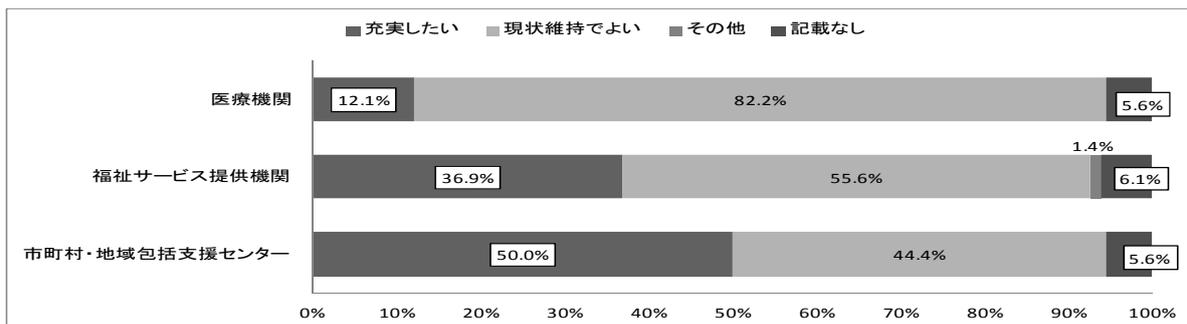
	充実したい	現状維持でよい	その他	記載なし	合計
医療機関	13 12.1%	88 82.2%	0 0.0%	6 5.6%	107 100.0%
福祉サービス提供機関	217 36.9%	327 55.6%	8 1.4%	36 6.1%	588 100.0%
市町村・地域包括支援センター	36 50.0%	32 44.4%	0 0.0%	4 5.6%	72 100.0%

図表 22-2 今後の対応 機関別（第1回調査）

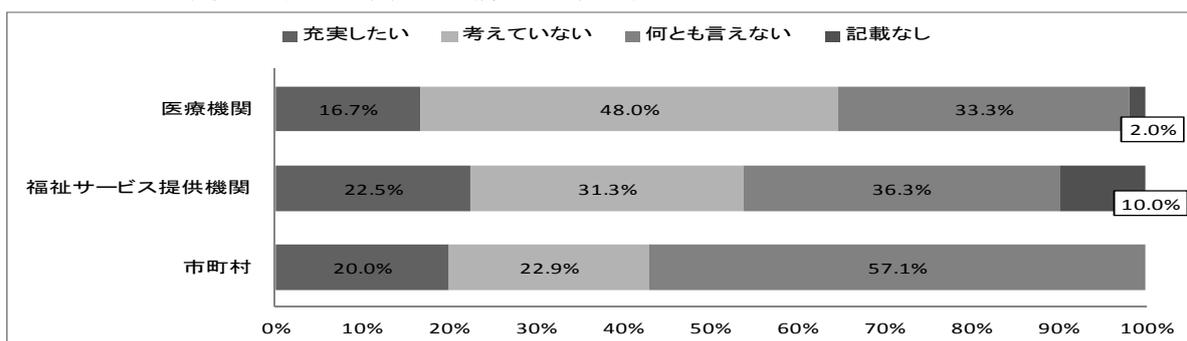
	充実したい	考えていない	何とも言えない	記載なし	合計
医療機関	17 16.7%	49 48.0%	34 33.3%	2 2.0%	102 100.0%
福祉サービス提供機関	18 22.5%	25 31.3%	29 36.3%	8 10.0%	80 100.0%
市町村	7 20.0%	8 22.9%	20 57.1%	0 0.0%	35 100.0%

※「考えていない」は、「現状維持でよい」を含む

図表 22-3 今後の対応 機関別（第2回調査）



図表 22-4 今後の対応 機関別（第1回調査）

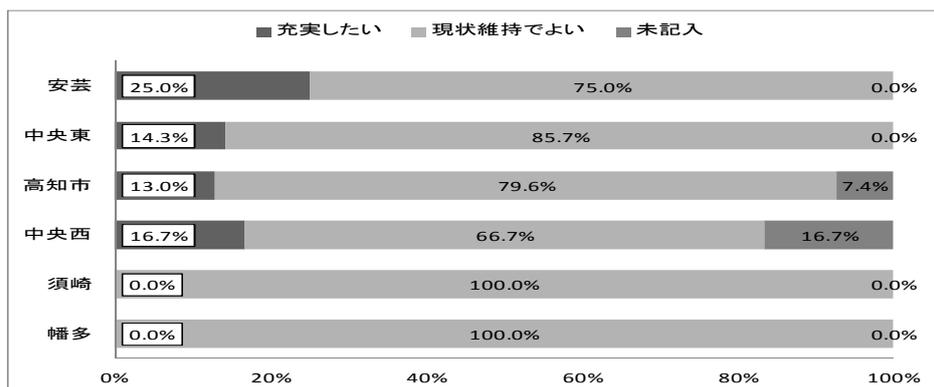


(2) 医療機関

図表 23-1 今後の対応 圏域別比較（第2回調査）

圏域	回答機関数	充実したい	現状維持でよい	未記入
安芸	8	2 25.0%	6 75.0%	0 0.0%
中央東	14	2 14.3%	12 85.7%	0 0.0%
高知市	54	7 13.0%	43 79.6%	4 7.4%
中央西	12	2 16.7%	8 66.7%	2 16.7%
須崎	5	0 0.0%	5 100.0%	0 0.0%
幡多	13	0 0.0%	13 100.0%	0 0.0%
不明	1	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%
合計	107	13 12.1%	88 82.2%	6 5.6%

図表 23-2 今後の対応 圏域別比較（第2回調査）

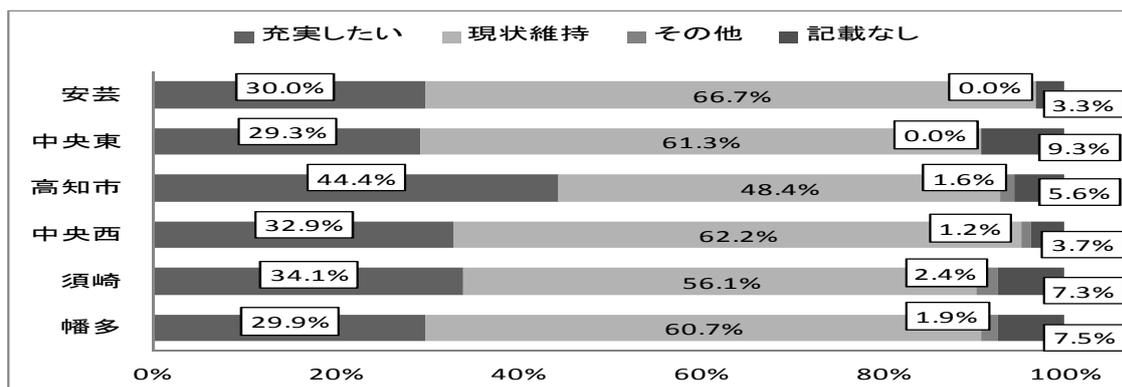


(3) 福祉サービス提供機関

図表 24-1 今後の対応 圏域別比較 (第2回調査)

圏域	回答機関数	充実したい	現状維持	その他	記載なし
安芸	30	9 30.0%	20 66.7%	0 0.0%	1 3.3%
中央東	75	22 29.3%	46 61.3%	0 0.0%	7 9.3%
高知市	250	111 44.4%	121 48.4%	4 1.6%	14 5.6%
中央西	82	27 32.9%	51 62.2%	1 1.2%	3 3.7%
須崎	41	14 34.1%	23 56.1%	1 2.4%	3 7.3%
幡多	107	32 29.9%	65 60.7%	2 1.9%	8 7.5%
不明	3	2	1		
合計	588	217 36.9%	327 55.6%	8 1.4%	36 6.1%

図表 24-2 今後の対応 圏域別比較 (第2回調査)



8 高次脳機能障害者への対応を充実するうえでの問題点

(1) 全機関の比較

「高次脳機能障害者への対応を充実したい」と回答した機関への「高次脳機能障害者に対する対応を充実する上で問題と考えること」の問いに対して、最も多かったのは「職員の知識・情報の向上」で、全機関の90.9%、医療機関では100%、福祉サービス提供機関92.6%、市町村・地域包括支援センター72.2%となっていた。次いで、「関係機関との連携」が全機関の62.1%、医療機関では53.8%、福祉サービス提供機関、59.4%、市町村・地域包括支援センター77.8%で、以下「各施設や地域内での支援体制」、「人材の確保」と続いている。

第1回調査と比較すると、第2回調査では「職員の知識・情報の向上」、「関係機関との連携」の割合が大きく増加している。

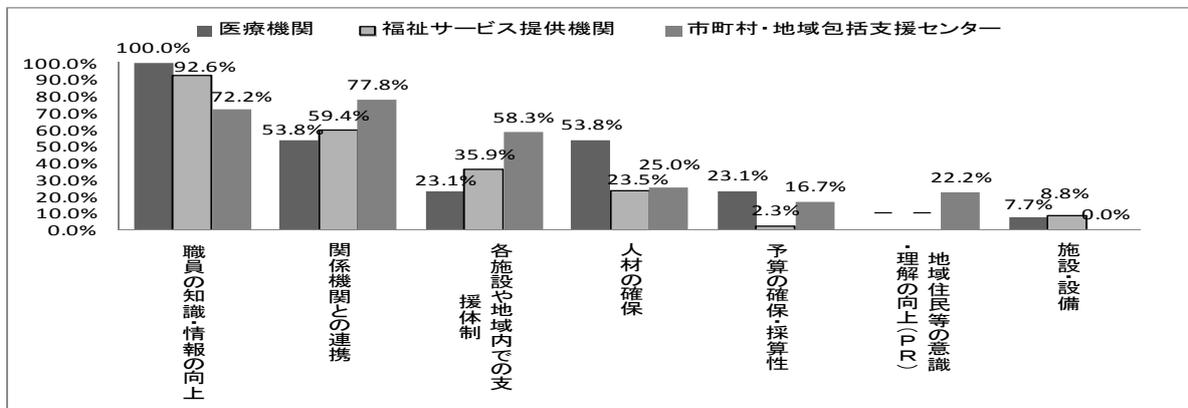
図表 25-1 対応を充実するうえでの問題点 機関別比較 (第2回調査)

	回答機関数	職員の知識・情報の向上	関係機関との連携	各施設や地域内での支援体制	人材の確保	施設・設備	採算性	地域住民等の意識・理解の向上(PR)	予算の確保	その他	未記入
医療機関	13	13	7	3	7	1	3	0		0	0
		100.0%	53.8%	23.1%	53.8%	7.7%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
福祉サービス提供機関	217	201	129	78	51	19	5	0		11	6
		92.6%	59.4%	35.9%	23.5%	8.8%	2.3%	0.0%	0.0%	5.1%	2.8%
市町村・地域包括支援センター	36	26	28	21	9	0		8	6	2	0
		72.2%	77.8%	58.3%	25.0%	0.0%	0.0%	22.2%	16.7%	5.6%	0.0%
合計	266	240	164	102	67	20	8	8	6	13	6
		90.9%	62.1%	38.6%	25.4%	7.6%	3.0%	3.0%	2.3%	4.9%	2.3%

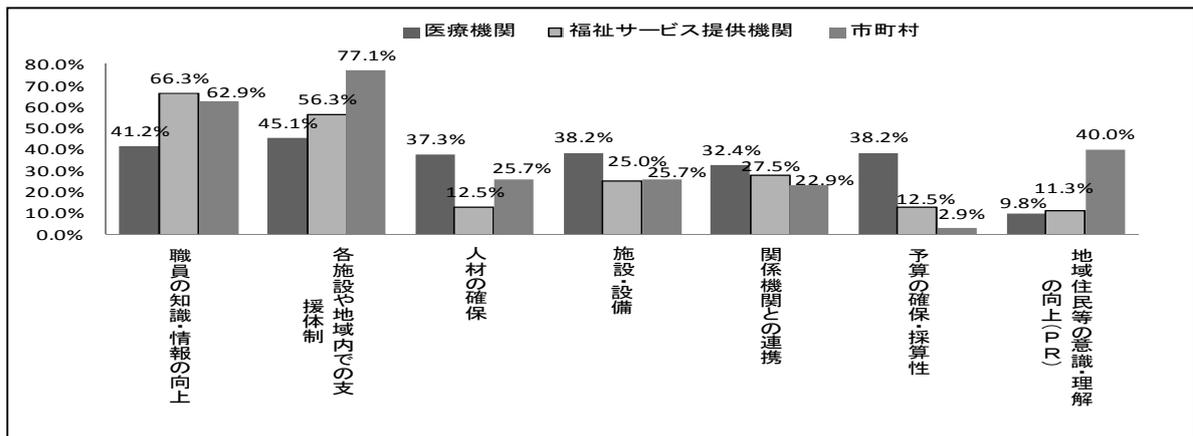
図表 25-2 対応を充実するうえでの問題点 機関別比較 (第1回調査)

	回答機関数	職員の知識・情報の向上	予算の確保・採算性	人材の確保	各施設や地域内での支援体制	施設・設備	関係機関との連携	地域住民等の意識・理解の向上(PR)	その他
医療機関	102	42	39	38	46	39	33	10	4
		41.2%	38.2%	37.3%	45.1%	38.2%	32.4%	9.8%	3.9%
福祉サービス提供機関	80	53	10	10	45	20	22	9	6
		66.3%	12.5%	12.5%	56.3%	25.0%	27.5%	11.3%	7.5%
市町村	35	22	1	9	27	9	8	14	1
		62.9%	2.9%	25.7%	77.1%	25.7%	22.9%	40.0%	2.9%
合計	217	117	50	57	118	68	63	33	11
		53.9%	23.0%	26.3%	54.4%	31.3%	29.0%	15.2%	5.1%

図表 25-3 対応を充実するうえでの問題点 機関別比較 (第2回調査)



図表 25-4 対応を充実するうえでの問題点 機関別比較 (第1回調査)

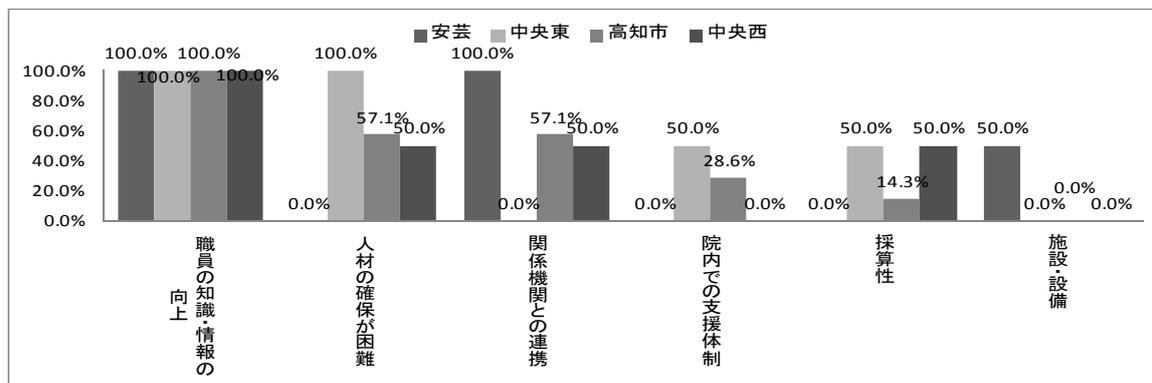


(2) 医療機関

図表 26-1 対応を充実するうえでの問題点 機関別・圏域別比較 (第2回調査)

圏域	回答機関数	職員の知識・情報の向上	人材の確保が困難	関係機関との連携	院内での支援体制	採算性	施設・設備	地域住民等の意識・理解の向上(P.R)	その他
安芸	2	2 100.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%
中央東	2	2 100.0%	2 100.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
高知市	7	7 100.0%	4 57.1%	4 57.1%	2 28.6%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
中央西	2	2 100.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
須崎	0								
幡多	0								
合計	13	13 100.0%	7 53.8%	7 53.8%	3 23.1%	3 23.1%	1 7.7%	0 0.0%	0 0.0%

図表 26-2 対応を充実するうえでの問題点 機関別・圏域別比較 (第2回調査)

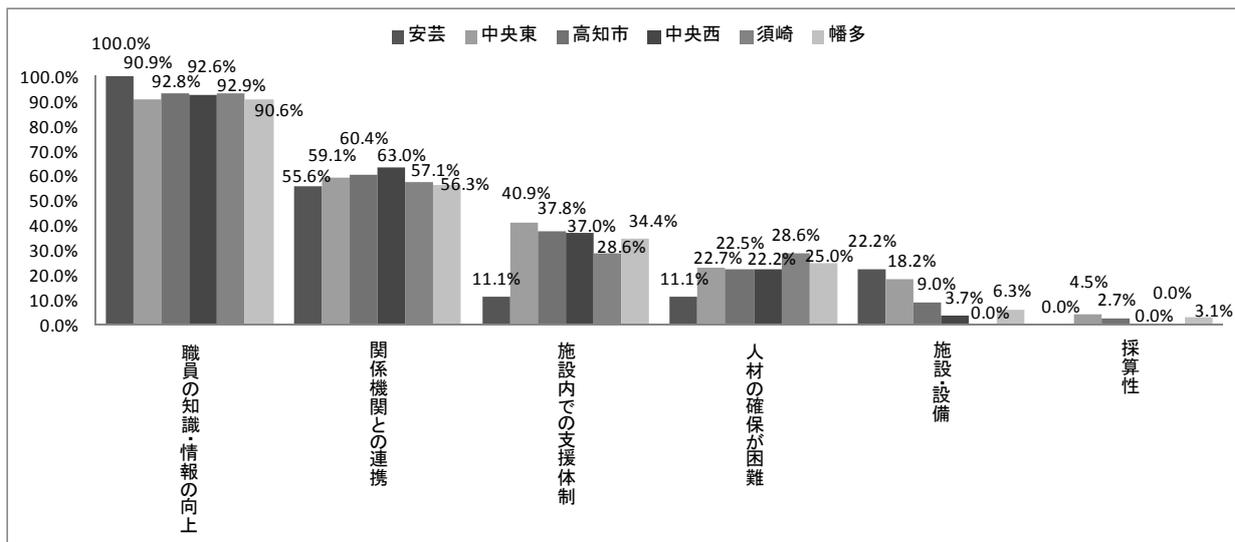


(3) 福祉サービス提供機関

図表 27-1 対応を充実するうえでの問題点 機関別・圏域別比較 (第2回調査)

圏域	回答機関数	職員の知識・情報の向上	関係機関との連携	施設内での支援体制	人材の確保が困難	施設・設備	採算性	その他	記載なし
安芸	9	9 100.0%	5 55.6%	1 11.1%	1 11.1%	2 22.2%	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%
中央東	22	20 90.9%	13 59.1%	9 40.9%	5 22.7%	4 18.2%	1 4.5%	1 4.5%	0 0.0%
高知市	111	103 92.8%	67 60.4%	42 37.8%	25 22.5%	10 9.0%	3 2.7%	4 3.6%	2 1.8%
中央西	27	25 92.6%	17 63.0%	10 37.0%	6 22.2%	1 3.7%	0 0.0%	4 14.8%	1 3.7%
須崎	14	13 92.9%	8 57.1%	4 28.6%	4 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%
幡多	32	29 90.6%	18 56.3%	11 34.4%	8 25.0%	2 6.3%	1 3.1%	1 3.1%	2 6.3%
不明	2	2	1	1	2				
合計	217	201 92.6%	129 59.4%	78 35.9%	51 23.5%	19 8.8%	5 2.3%	11 5.1%	6 2.8%

図表 27-2 対応を充実するうえでの問題点 機関別・圏域別比較（第2回調査）



9 高次脳機能障害者への支援を充実するうえでの地域の課題

(1) 全機関の比較

高次脳機能障害者への支援を充実する上での地域における課題については、機関ごとの最も高率の回答は、医療機関では「高次脳機能障害者に対応できる施設の充実」49.5%、福祉サービス提供機関では「高次脳機能障害の理解の普及啓発」49.0%、市町村・地域包括支援センターでは「地域での生活全般をコーディネートできる機関の充実」47.2%となっている。次いで、回答率が高かったのは、医療機関では「市町村における相談窓口の明確化」43.0%、福祉サービス提供機関では「地域での生活全般をコーディネートできる機関の充実」35.5%、市町村・地域包括支援センターでは「生活訓練プログラムの普及」45.8%となっている。

第1回調査との比較では、市町村の77.1%を占めていた「高次脳機能障害の理解の普及啓発」が、第2回調査では、37.5%と半減している。

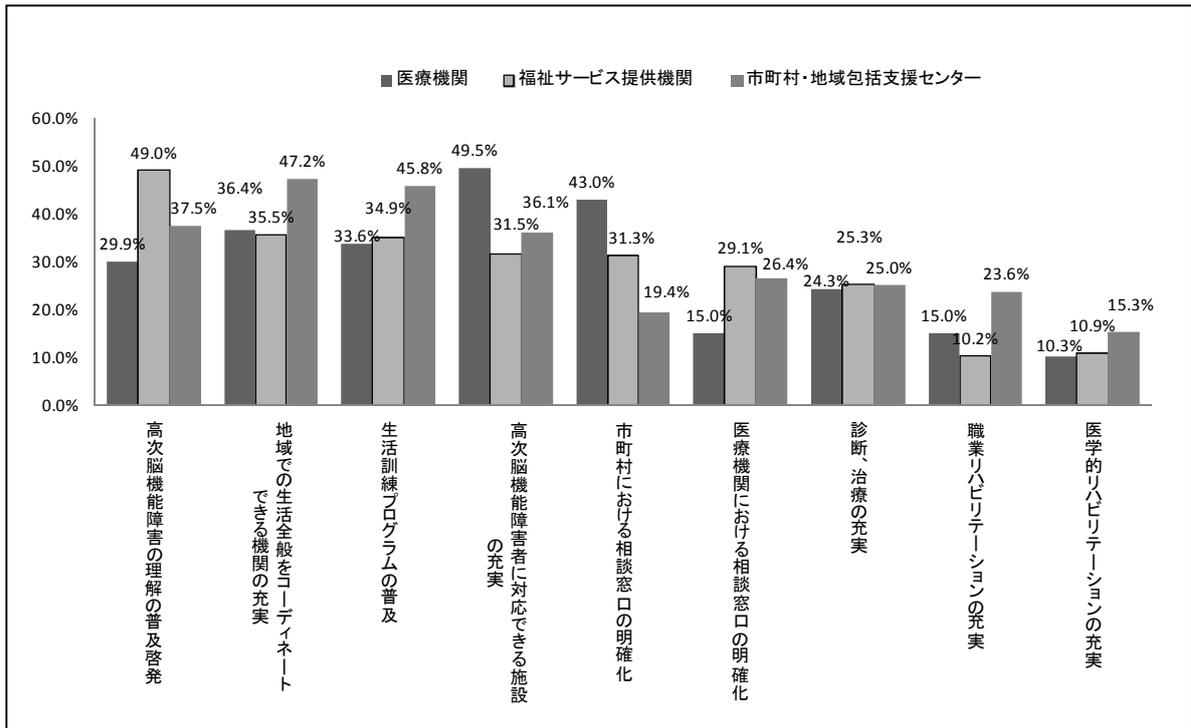
図表 28-1 地域における課題 機関別（第2回調査）

	回答機関数	市町村における相談窓口の明確化	医療機関における相談窓口の明確化	診断、治療の充実	医学的リハビリテーションの充実	生活訓練プログラムの普及	職業リハビリテーションの充実	高次脳機能障害の理解の普及啓発	高次脳機能障害者に対応できる施設の充実	地域での生活全般をコーディネートできる機関の充実	その他	わからない	未記入
医療機関	107	46	16	26	11	36	16	32	53	39	0	5	11
		43.0%	15.0%	24.3%	10.3%	33.6%	15.0%	29.9%	49.5%	36.4%	0.0%	4.7%	10.3%
福祉サービス提供機関	588	184	171	149	64	205	60	288	185	209	3	21	36
		31.3%	29.1%	25.3%	10.9%	34.9%	10.2%	49.0%	31.5%	35.5%	0.5%	3.6%	6.1%
市町村・地域包括支援センター	72	14	19	18	11	33	17	27	26	34	6	3	0
		19.4%	26.4%	25.0%	15.3%	45.8%	23.6%	37.5%	36.1%	47.2%	8.3%	4.2%	0.0%
合計	767	244	206	193	86	274	93	347	264	282	9	29	47
		31.8%	26.9%	25.2%	11.2%	35.7%	12.1%	45.2%	34.4%	36.8%	1.2%	3.8%	6.1%

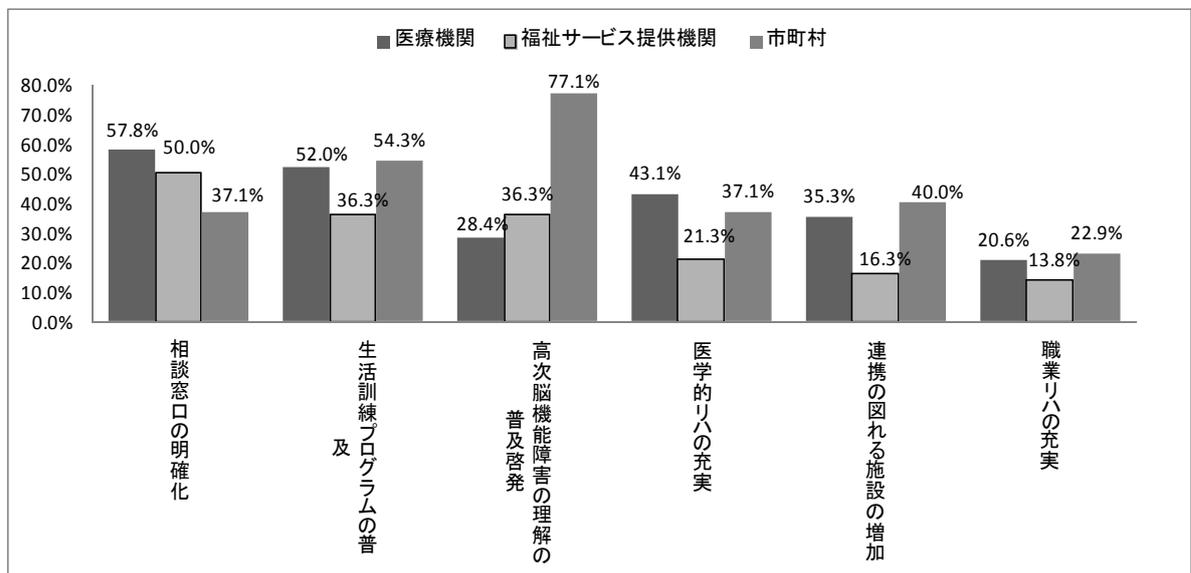
図表 28-2 地域における課題 機関別 (第1回調査)

	回答機関数	相談窓口の明確化	医学的リハの充実	生活訓練プログラムの普及	職業リハの充実	障害理解の普及啓発	連携の図れる施設の増加	その他
医療機関	102	59	44	53	21	29	36	4
		57.8%	43.1%	52.0%	20.6%	28.4%	35.3%	3.9%
福祉サービス提供機関	80	40	17	29	11	29	13	8
		50.0%	21.3%	36.3%	13.8%	36.3%	16.3%	10.0%
市町村	35	13	13	19	8	27	14	2
		37.1%	37.1%	54.3%	22.9%	77.1%	40.0%	5.7%
合計	217	112	74	101	40	85	63	14
		51.6%	34.1%	46.5%	18.4%	39.2%	29.0%	6.5%

図表 28-3 地域における課題 機関別 (第2回調査)



図表 28-4 地域における課題 機関別 (第1回調査)

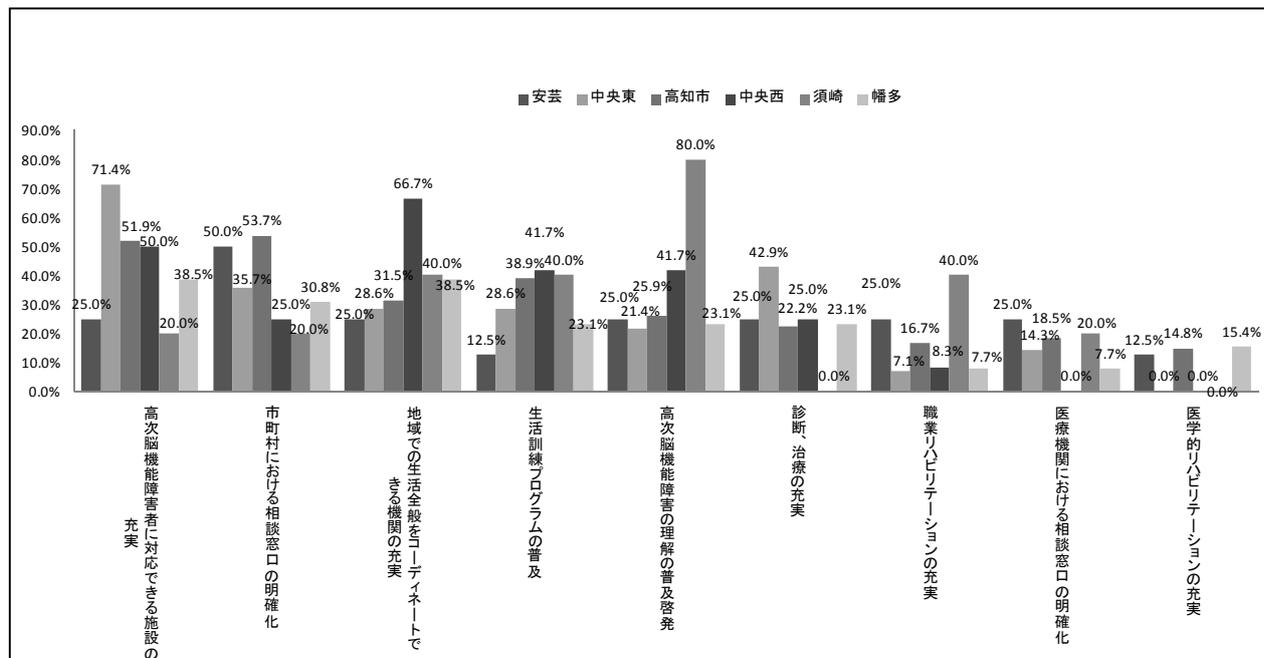


(2) 医療機関

図表 29-1 地域における課題 圏域別比較 (第2回調査)

圏域	回答機関数	高次脳機能障害者に対応できる施設の充実	市町村における相談窓口の明確化	地域での生活全般をコーディネートできる機関の充実	生活訓練プログラムの普及	高次脳機能障害の理解の普及啓発	診断、治療の充実	職業リハビリテーションの充実	医療機関における相談窓口の明確化	医学的リハビリテーションの充実	わからない	その他	未記入
安芸	8	2 25.0%	4 50.0%	2 25.0%	1 12.5%	2 25.0%	2 25.0%	2 25.0%	2 25.0%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	2 25.0%
中央東	14	10 71.4%	5 35.7%	4 28.6%	4 28.6%	3 21.4%	6 42.9%	1 7.1%	2 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%
高知市	54	28 51.9%	29 53.7%	17 31.5%	21 38.9%	14 25.9%	12 22.2%	9 16.7%	10 18.5%	8 14.8%	3 5.6%	0 0.0%	4 7.4%
中央西	12	6 50.0%	3 25.0%	8 66.7%	5 41.7%	5 41.7%	3 25.0%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%
須崎	5	1 20.0%	1 20.0%	2 40.0%	2 40.0%	4 80.0%	0 0.0%	2 40.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
幡多	13	5 38.5%	4 30.8%	5 38.5%	3 23.1%	3 23.1%	3 23.1%	1 7.7%	1 7.7%	2 15.4%	2 15.4%	0 0.0%	3 23.1%
不明	1	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計	107	53 49.5%	46 43.0%	39 36.4%	36 33.6%	32 29.9%	26 24.3%	16 15.0%	16 15.0%	11 10.3%	5 4.7%	0 0.0%	11 10.3%

図表 29-2 地域における課題 圏域別比較 (第2回調査)

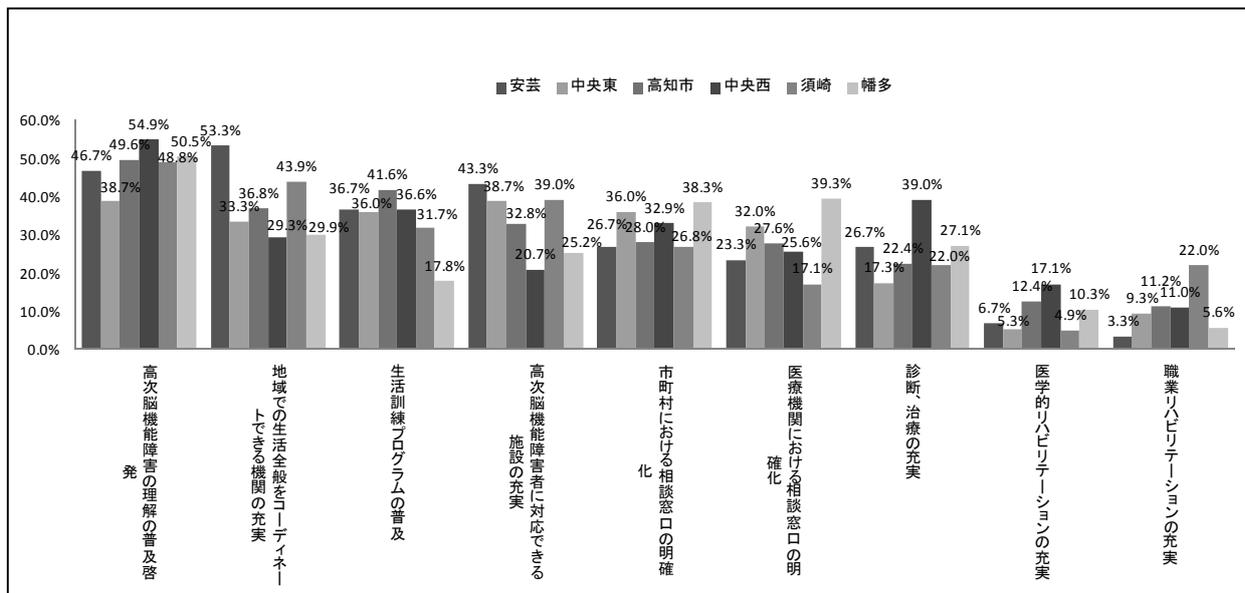


(3) 福祉サービス提供機関

図表 30-1 地域における課題 圏域別比較 (第2回調査)

圏域	回答機関数	高次脳機能障害の理解の普及啓発	地域での生活全般をコーディネートできる機関の充実	生活訓練プログラムの普及	高次脳機能障害者に対応できる施設の充実	市町村における相談窓口の明確化	医療機関における相談窓口の明確化	診断、治療の充実	医学的リハビリテーションの充実	職業リハビリテーションの充実	その他	わからない	記載なし
安芸	30	14 46.7%	16 53.3%	11 36.7%	13 43.3%	8 26.7%	7 23.3%	8 26.7%	2 6.7%	1 3.3%	0 0.0%	1 3.3%	0 0.0%
中央東	75	29 38.7%	25 33.3%	27 36.0%	29 38.7%	27 36.0%	24 32.0%	13 17.3%	4 5.3%	7 9.3%	2 2.7%	2 2.7%	7 9.3%
高知市	250	124 49.6%	92 36.8%	104 41.6%	82 32.8%	70 28.0%	69 27.6%	56 22.4%	31 12.4%	28 11.2%	1 0.4%	5 2.0%	15 6.0%
中央西	82	45 54.9%	24 29.3%	30 36.6%	17 20.7%	27 32.9%	21 25.6%	32 39.0%	14 17.1%	9 11.0%	0 0.0%	4 4.9%	2 2.4%
須崎	41	20 48.8%	18 43.9%	13 31.7%	16 39.0%	11 26.8%	7 17.1%	9 22.0%	2 4.9%	9 22.0%	0 0.0%	2 4.9%	4 9.8%
幡多	107	54 50.5%	32 29.9%	19 17.8%	27 25.2%	41 38.3%	42 39.3%	29 27.1%	11 10.3%	6 5.6%	0 0.0%	7 6.5%	8 7.5%
不明	3	2	2	1	1	0	1	2	0	0	0	0	0
合計	588	288 49.0%	209 35.5%	205 34.9%	185 31.5%	184 31.3%	171 29.1%	149 25.3%	64 10.9%	60 10.2%	3 0.5%	21 3.6%	36 6.1%

図表 30-2 地域における課題 機関別・圏域別比較 (第2回調査)



10 サービス提供機関としての情報開示の可否

「高次脳機能障害の診断・治療または、サービス提供に協力してくれる機関として情報提供してもいいか。」との問について、「パンフレット、ホームページ等に掲載してもよい」「当事者・家族から問い合わせがあれば、紹介してもよい」「専門職からの問い合わせがあれば、紹介してもよい」と何らかの形での情報提供を可能と回答したのは、医療機関では52機関(48.6%)、福祉サービス提供機関では377機関(64.1%)となっている。

図表 31 情報提供の可否 機関別

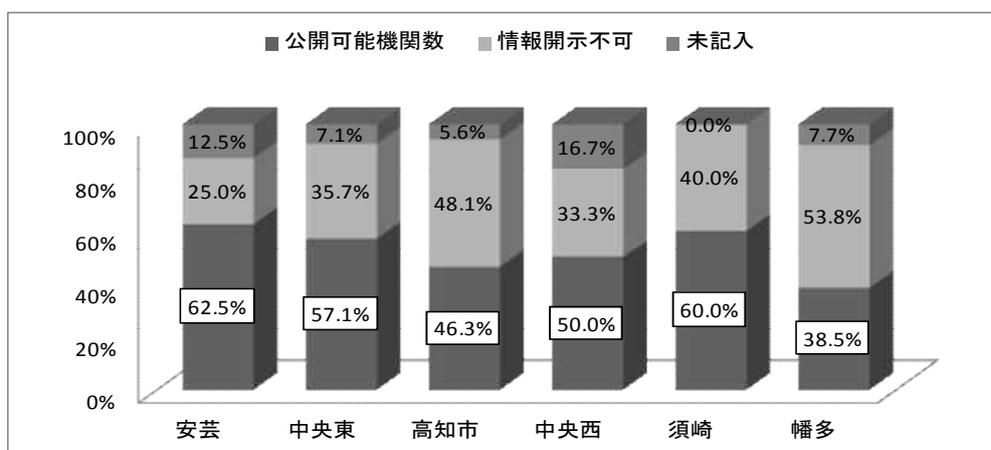
	回答機関数	HP等への掲載可能	当事者・家族なら	専門職なら	情報開示はできない	その他	記載なし
医療機関	107	19 17.8%	28 26.2%	23 21.5%	46 43.0%	0	9 8.4%
福祉サービス提供機関	588	82 13.9%	247 42.0%	158 26.9%	119 20.2%	11 1.9%	81 13.8%

(1) 医療機関

図表 32-1 情報開示可否 圏域別比較

圏域	回答機関数	掲載してもよい	当事者・家族なら	専門職なら	公開可能機関数	情報開示不可	未記入
安芸	8	3 37.5%	2 25.0%	3 37.5%	5 62.5%	2 25.0%	1 12.5%
中央東	14	1 7.1%	4 28.6%	5 35.7%	8 57.1%	5 35.7%	1 7.1%
高知市	54	10 18.5%	16 29.6%	10 18.5%	25 46.3%	26 48.1%	3 5.6%
中央西	12	2 16.7%	3 25.0%	2 16.7%	6 50.0%	4 33.3%	2 16.7%
須崎	5	1 20.0%	2 40.0%	1 20.0%	3 60.0%	2 40.0%	0 0.0%
幡多	13	2 15.4%	1 7.7%	2 15.4%	5 38.5%	7 53.8%	1 7.7%
不明	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
合計	107	19 17.8%	28 26.2%	23 21.5%	52 48.6%	46 43.0%	9 8.4%

図表 32-1 情報開示可否 圏域別比較

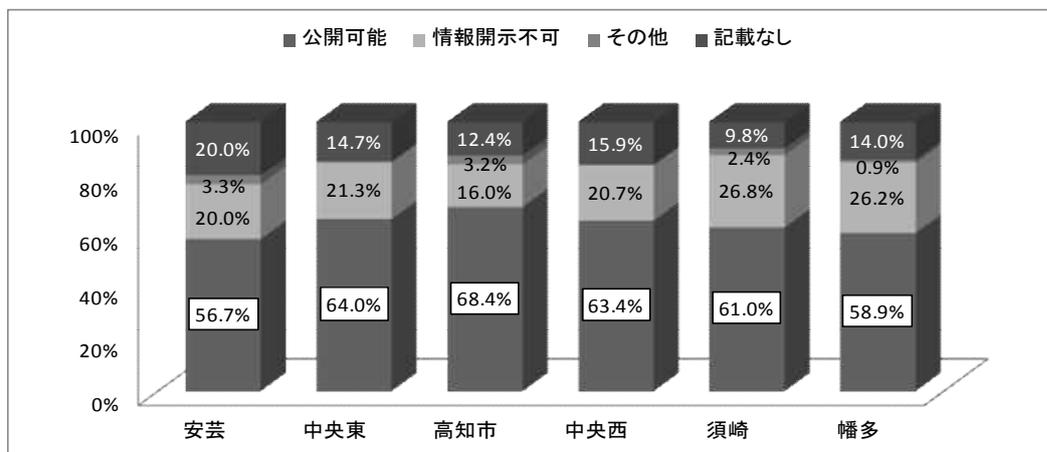


(2) 福祉サービス提供機関

図表 33-1 情報開示可否 圏域別比較

圏域	回答機関数	掲載してもよい	当事者・家族なら	専門職なら	(何らかの形で)公開可能	情報開示不可	その他	記載なし
安芸	30	3 10.0%	10 33.3%	6 20.0%	17 56.7%	6 20.0%	1 3.3%	6 20.0%
中央東	75	9 12.0%	34 45.3%	17 22.7%	47 62.7%	16 21.3%	0 0.0%	12 16.0%
高知市	250	51 20.4%	104 41.6%	86 34.4%	172 68.8%	40 16.0%	8 3.2%	30 12.0%
中央西	82	4 4.9%	37 45.1%	20 24.4%	52 63.4%	17 20.7%	0 0.0%	13 15.9%
須崎	41	4 9.8%	17 41.5%	10 24.4%	25 61.0%	11 26.8%	1 2.4%	4 9.8%
幡多	107	11 10.3%	45 42.1%	18 16.8%	63 58.9%	28 26.2%	1 0.9%	15 14.0%
不明	3	0	0	1	1	1	0	1
合計	588	82 13.9%	247 42.0%	158 26.9%	377 64.1%	119 20.2%	11 1.9%	81 13.8%

図表 33-2 情報開示可否 圏域別比較 (福祉サービス提供機関)



11 高次脳機能障害支援拠点 (高次脳機能障害相談支援センター) の認知度・利用状況

(1) 全機関の比較

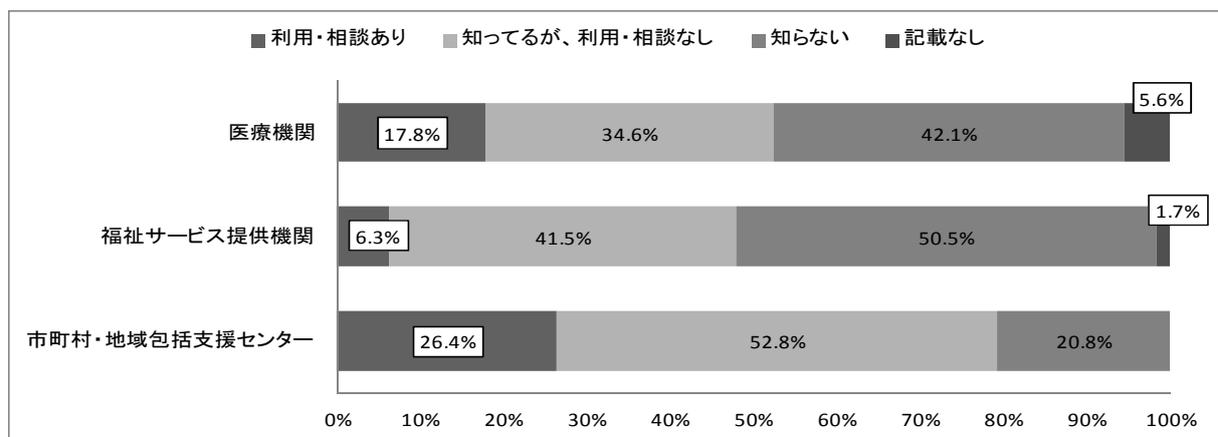
高次脳機能障害支援拠点 (高次脳機能障害相談支援センター) の認知度について、医療機関の 52.3%、福祉サービス提供機関の 47.8%、市町村・地域包括支援センターの 79.2%が、「知っている」と回答している。「利用・相談したことがある」割合が最も高かったのは、市町村・地域包括支援センターで 26.4%であった。

各機関の回答が最も多かった「知っているが、利用・相談はしたことはない」の主な理由は、「該当者がいない」であったが、「活動内容等が不明」、「相談の仕方、手順が分からない」といった記載もみられた。

図表 34-1 支援拠点認知度 機関別比較 (第2回調査)

	知っており、利用・相談したことがある	存在は知っているが、利用・相談したことはない	知らない	記載なし	合計
医療機関	19 17.8%	37 34.6%	45 42.1%	6 5.6%	107 100.0%
福祉サービス提供機関	37 6.3%	244 41.5%	297 50.5%	10 1.7%	588 100.0%
市町村・地域包括支援センター	19 26.4%	38 52.8%	15 20.8%	0 0.0%	72 100.0%

図表 34-2 支援拠点認知度 機関別比較 (第2回調査)

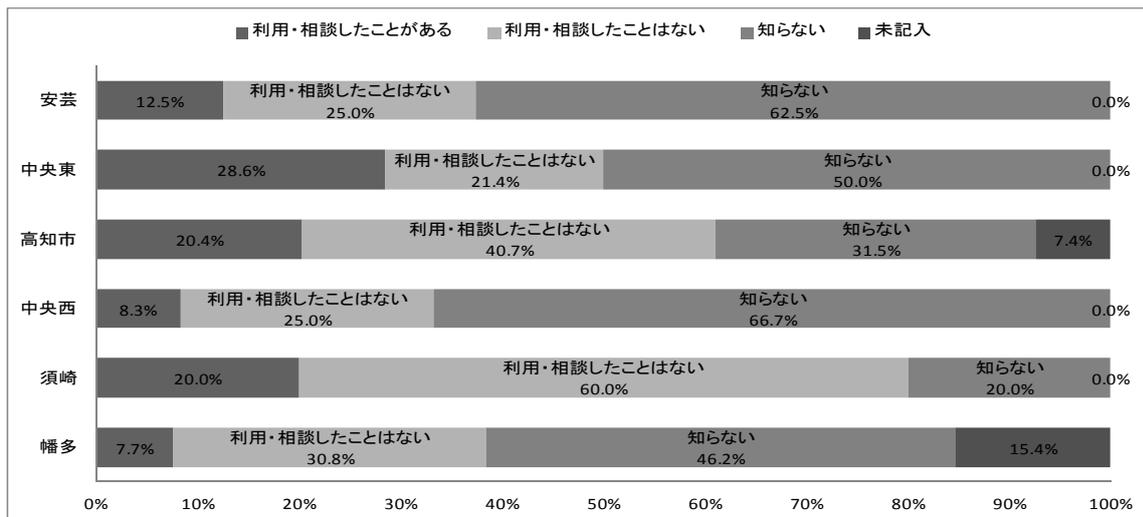


(2) 医療機関

図表 35-1 支援拠点認知度 機関別・圏域別比較

圏域	回答機関数	知っており、利用・相談したことがある	存在は知っているが、利用・相談したことはない	知らない	未記入
安芸	8	1 12.5%	2 25.0%	5 62.5%	0 0.0%
中央東	14	4 28.6%	3 21.4%	7 50.0%	0 0.0%
高知市	54	11 20.4%	22 40.7%	17 31.5%	4 7.4%
中央西	12	1 8.3%	3 25.0%	8 66.7%	0 0.0%
須崎	5	1 20.0%	3 60.0%	1 20.0%	0 0.0%
幡多	13	1 7.7%	4 30.8%	6 46.2%	2 15.4%
不明	1	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%
合計	107	19 17.8%	37 34.6%	45 42.1%	6 5.6%

図表 35-2 支援拠点認知度 機関別・圏域別比較

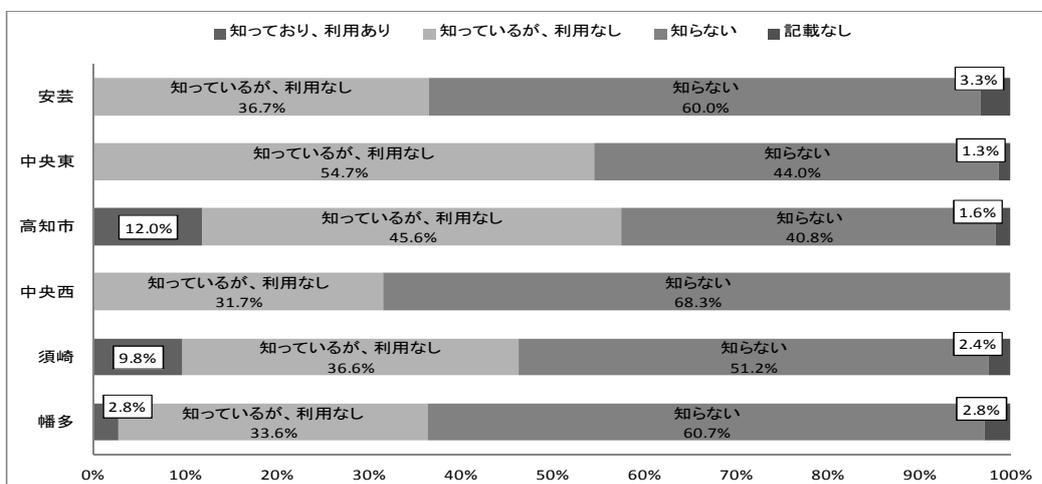


(3) 福祉サービス提供機関

図表 36-1 支援拠点認知度 機関別・圏域別比較

圏域	回答機関数	知っており、利用あり	知っているが、利用なし	知らない	記載なし
安芸	30	0 0.0%	11 36.7%	18 60.0%	1 3.3%
中央東	75	0 0.0%	41 54.7%	33 44.0%	1 1.3%
高知市	250	30 12.0%	114 45.6%	102 40.8%	4 1.6%
中央西	82	0 0.0%	26 31.7%	56 68.3%	0 0.0%
須崎	41	4 9.8%	15 36.6%	21 51.2%	1 2.4%
幡多	107	3 2.8%	36 33.6%	65 60.7%	3 2.8%
不明	3	0	1	2	0
合計	588	37 6.3%	244 41.5%	297 50.5%	10 1.7%

図表 36-2 支援拠点認知度 機関別・圏域別比較



12 自由意見

高次脳機能障害者の支援体制の現状、課題、今後のあり方等について

(1) 病院・有床診療所

- ・ 一人暮らしの方の地域での支援体制が充分でない、また地域格差もある。
- ・ 介護保険、身障サービスにも該当しない軽度者の支援体制が不足。
- ・ MRI や PET などを用いた画像診断の進歩が欠かせない。また、有効なリハビリテーションの手技も確立しておらず今後の課題。
- ・ 高次脳機能障害者は、その他運動感覚障害も有している事が多く、総合的に評価プラン作成・リハビリ・職業訓練を一連の流れとして取り扱うべき。
- ・ 急性期より慢性期のケースが多くなると思われるが、必要なら連携パスで連携していくべき。各医療機関や施設での役割分担の明確化が必要。
- ・ 身体リハビリ治療機能を持つ病院との連携が必要。
- ・ 以前に比べ在宅で暮らす方の支援は充実してきているが、まだ十分ではない。啓発運動も含め、まだまだ支援体制の充実が必要。
- ・ 高次脳機能障害を診断、治療する医療機関が少ない。高次脳機能障害者を対象にした支援サービス(居住施設等)が少ない。
- ・ 実際の生活の場を見て、支援する機能やシステムの構築が必要。
- ・ 利用者が安心してリハビリに取り組めるように家族サポートの充実。
- ・ 知識の普及啓発と生活サポート、それを利用するための市町村の窓口が必要。
- ・ もっと啓蒙が必要。
- ・ 高齢者の場合、介護の問題として上がってくる事が多いが、要介護度に反映されにくくサービスが使えない等の問題がある。
- ・ 高次脳機能障害について、職員全体の知識は乏しい。
- ・ 「高知ハビリテーリングセンター」がどのような支援をしているのかを簡単に知る事が出来るシステムがあると良い。
- ・ 症状が軽快しても、受け皿がなく長期化し、社会復帰の機会を損なう場合もある。コーディネートする役割を担ってくれる機関が必要と考える。
- ・ 受け入れを考慮しても、現状の診療報酬では、人の確保は100%不可能

(2) 無床診療所

- ・ 神経内科・脳神経外科・精神科の協力が必要。
- ・ 神経心理の検査をしてくれる所があれば、診断可能となる施設が増える。
- ・ 専門的に診断してくれる施設があれば、周知して欲しい。
- ・ ショートステイとして利用できるようにしてほしい
- ・ 高知ハビリテーリングセンターが窓口として、相談・診断・リハビリまで行う。
- ・ 高次脳機能障害のある、高齢、要介護者が入所されることも今後十分考えられる為、高次脳機能障害についての認識を今一度見直し、理解する事が大切。

(3) 福祉サービス提供機関

○ 研修会開催等の人材育成の機会提供

- ・ 是非分かりやすい教育の機会をつくって欲しい。
- ・ 研修会の開催、パンフレットの配布などをお願いします。
- ・ 高次脳機能障害者の理解を深める為の研修等に参加したいが時間がとれない。
- ・ 高次脳機能障害についてあまりよく知らない現状。
- ・ 高次脳機能障害についての理解がまだ普及されていない様に感じる。
- ・ 講師の派遣。
- ・ 一般的にはまだまだ理解や普及ができていないと思えず、認知症と混同されるケースもよくあるので、支援体制や相談窓口の充実を図って頂きたい。

○ 支援や対応を充実させたい

- ・ 家族、近隣の方からの情報を頂き、『疑い』がある方に対して受診を勧めていきたい。また「高知ハビリテーリングセンター」などの情報も与えていきたい。
- ・ ショートステイ・短期入所等の充実（家族の体調、急な用事等で当事者の見守りができなくなった時、今、即対応してもらえる支援体制）。家族に対する支援の充実（カウンセリング、仕事を続けることができる支援）。
- ・ 家族の方の介護負担の軽減をと思っても、受入れてもらえるショートや入所の施設が不足している。
- ・ 複数のサービスが同時期に受けられる体制の整備。

○ 支援拠点、ネットワークの充実

- ・ 各市町村に高次脳機能障害支援拠点を増やしてもらい、家族や当事者が気軽に簡単に相談出来るようになればよい。
- ・ 高次脳機能障害者支援拠点といっても、高知市だけのものという感じが強い。郡部にも拠点や利用できる施設をおいてもらいたい。
- ・ 医療・福祉・各サービスやもちろんインフォーマルも含めて地域支援の連携が必要。
- ・ 対応に困った際、気軽に相談等ができれば有難い。
- ・ ご本人、ご家族、支援者等へのアドバイスを含めて、高次脳機能障害相談支援センターの皆様ぜひご協力いただきたい。

○ 啓発、広報

- ・ 高次脳機能障害の疑いのある利用者に対して、どう支援していくのかを明確にして欲しい。
- ・ 一般の方にもわかりやすいような情報をメディア等を使い伝え、理解者を増やして欲しい。
- ・ 高次脳機能障害と判断がつくまでに家族が大変苦労していた。
- ・ 高次脳機能障害に対する一般的な理解度が低いので理解を深めるような活動・啓発を行う機会を増やして欲しい。
- ・ 行政機関が高次脳機能障害の理解の為、啓発活動を積極的に行うべき。

○ 病院への要望

- ・ 対象者の症状について主治医からの説明がほしい。またその症状に対しての対応方法についての指導や助言もほしい。
- ・ 病院を退院する際、適切なアドバイスをご家族、ご本人が受けられなければ、その後の生活障害を改善するための支援が受けられなくなる。

○ その他

- ・ 高齢の親のみがキーパーソンのケースがあり、後見人を含めて今後の支援をどうしていくのか働きかけが難しい。
- ・ 見守りや声掛けが常時必要な方は、家族の介護負担が大きい。

(4) 市町村・地域包括支援センター

- ・ 高次脳機能障害者の支援には、点ではなく連携を密にして、面で支える事が大切。相談窓口は大切と思うが、支える現場の人たちの理解も重要。
- ・ 部署内での他業務が多忙で、対応しきれないのが現状。また、高次脳機能障害についての知識が乏しい。
- ・ 包括支援センターとしては、高次脳機能障害の人への福祉サービスは、65歳未満の場合、どうつなげているのか把握したい。
- ・ 当事者が一旦地域に帰ると既存の障害者相談支援の枠内のみで支援を図って行くのはとても難しい。今後の支援を行う上で、支援の妥当性や可能性、病後予測等について別専門機関（出来れば圏域内）からの後押しや連携がほしい。高次脳機能障害そのものについての診断基準や特性など、支援者サイドの学びも必要。
- ・ 高次脳機能障害について、市民への普及啓発も必要。
- ・ 病気に対する理解と診断の充実が求められる。
- ・ 高次脳機能障害を疑われる方でも診断を受けていない場合は、各種のサービスや支援につながらない。医療機関での診断の充実を希望。
- ・ 高知ハビリテーリングセンターにおける高次脳機能障害支援拠点の役割、位置付け、市町村との連携等もっとPRしてもらいたい。
- ・ 管内での専門医、リハビリが受けられる所などの情報不足。
- ・ ハビリテーリングセンターと地域包括がもっと情報共有などをしていくべき。
- ・ 助言のみでなく、家族の立場に立って一緒に動いてくれる支援が欲しい。
- ・ 年齢の若い人（交通事故等による頭部外傷やくも膜下出血など）への、生活訓練プログラムや就労の充実はとても大切な事。
- ・ 包括支援センターへは、高次脳機能障害の起因として脳血管性疾患の相談が多い。また、すでに要介護状態の人が多く、必要な介護や経済面で困窮された方が多い。軽度者は、在宅で介護サービスも使わず生活され、家族が生活全般を担っているケースがある。